

2017 年 第 2 回アジアジュニア・ユース
オリエンテーリング選手権大会
日本代表チーム遠征報告書

2017 年 10 月

公益社団法人日本オリエンテーリング協会 強化委員会

1. はじめに

第2回アジアオリエンテーリング選手権大会（AsJYOC）が、2017年8月20日～24日の日程で、中国・内モンゴル自治区・ハイラルにおいて開催されました。そして、日本代表チームの遠征にご協力していただいた皆様、国内での強化合宿にご協力いただいた皆様、また寄付金という形でご協力いただいた皆様に感謝いたします。

さて、第2回 AsJYOC の遠征に関しては、バタバタの連続でした。第1回 AsJYOC が2015年12月末に香港で開催されたことから、第2回 AsJYOC も12月末に行われると予想していたところ、2017年4月ニュージーランドで開催されたマスターズ選手権大会の会場において、「2017年8月開催」との情報を得ました。その後、5月に入って AsJYOC が IOF O-Eventor のイベントリストに入ったものの、大会エントリーや宿泊に関する情報が掲載されているはずのブリテン1（開催要項）は、7月まで公開されませんでした。しかし、ブリテン1の公開まで待ってから代表選手選考やチーム構成を検討している時間はないと判断し、2017年5月14日に代表選手の選考方法を公開しました（参考資料1）。その後、2017年6月18日（日）に開催された第43回全日本大会会場において、国際大会の経験豊富な国沢五月氏、村越久子氏、新井宏美氏、岡本洸彰氏の4名に帯同オフィシャルを依頼することになりました。そして全日本大会の成績等をもとに、6月23日（金）に代表候補選手20名を発表しました。なお、代表候補選手の時点でもブリテン1が公開されておらず、「大会要項（ブリテン）が未発表であり、状況により辞退の申し出も受け付けます。またチーム編成を考えて、追加で代表候補として発表する可能性もあります」との「但し書き」をつけた状況での発表となってしまいました。

その後、7月11日にやっとブリテン1が公開され、1名の出場辞退と1名の代表選手の追加を行っています。7月22日～23日には富士宮で、8月12日～13日には富士見高原で強化合宿を行いました。そして8月18日に代表チームは現地ハイラルに到着し、最終トレーニングキャンプを経て、大会本番を迎えることになりました。ただし、現地ハイラルに入ってから、オーガナイザーとの調整（というよりは交渉）を続けることとなり、帯同オフィシャルの皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです（詳しいことは、帯同オフィシャルの皆さんから直接聞いてもらうのがいいでしょう。山のように裏話も聞くことができますと思います）。

日本代表チームは、金メダル3個、銀メダル3個、銅メダル6個を獲得するという好成績を残しました（参考資料3：オリエンテーリング協会が発行したプレスリリース）。この好成績は、AsJYOC に対する代表選手や帯同オフィシャルの想いが結実した結果だと思っています。そして、2年後の第3回 AsJYOC は、日本での開催が決まりました。地元日本での開催を考えると、さらに多くのメダルの期待が高まります。それに応えるためにも、これまでのジュニア強化選手（U20 強化選手）だけでなく、U16 や U18 強化選手の指定も必要になってくるのではないかと考えています。

最後に、繰り返しになりますが、様々な形で第2回 AsJYOC の日本代表チームの活動にご協力、ご声援をいただいた皆様に感謝いたします。

強化委員会 藤井範久

2. 代表選手からのコメント

M16

金子 隼人
国沢 琉
清古 光
藤原 考太郎
森清 星也

M18

祖父江 有祐

M20

稲森 剛
楠 健志
柴沼 健
高見澤 翔一
新田見 優輝

W16

落合 英那
古田島 鈴音
丸山 里那子

W18

吉田 菜々子

W20

出田 涼子
小竹 佳穂
高橋 利奈
増澤 すず
宮本 和奏

第2回アジアジュニア・ユース選手権大会 報告書

金子 隼人

・ AsJYOC を目指そうと思ったきっかけ

2年前にこの大会に出場して、全く結果が残せないまま日本に帰ることになってしまい、僕にとってとても苦い思い出となりました。その雪辱を晴らすため、というのが大きいです。

また、今回は海外でのレースをする貴重なチャンスであり、これからの自分のオリエンテーリングに必ず生きてくると思い、AsJYOC を目指しました。

・ 今回の AsJYOC の目標

スプリントリレーでは、表彰台に立つこと。

スプリントとミドルでは、優勝すること。

・ AsJYOC に向けたトレーニング

7月に代表に選ばれたとき、今回の大会は8月末のタイミングで開かれるので、夏休みの期間にだれだけしっかりと下準備をするかで結果が大きく変わってく

と考えました。

そこで、夏休みのあいだは積極的に大会や合宿に参加しようと思い、強化合宿や東大 OLK 大会、トータス合宿などとにかく多く森に入るようにしました。

合宿では、特に自分の苦手な道と地形の複合レッグやロングレッグを中心に練習を行いました。まだまだ精神的な面で弱いところが多く、練習やレースでの後半の集中力が課題だと感じました。それでも、周りの選手にいい影響を与えられながら、やることが明確になり、充実したものに出来たと思います。

また、大会がない日は、主に 8 キロくらいの長めのペース走を中心に、内モンゴルでのスピード重視のレースのためのトレーニングを行いました。

夏休みは合宿以外にも宿泊行事や夏期講習などで忙しかったので、空いている日には 4 分/km くらいのペースで長めの距離を走る練習と 10 km 以上のロングジョグを主に取り組みました。

・レース内容・成績について

1 日目・スプリント

一番初めのレースで緊張したのか、△→1 で 4 分以上の大ツボリを犯してしまい、その後も調子を取り戻せず、後半もミスを重ねて最悪のレースでした。

原因は、レース前のウォーミングアップが足りておらず走りすぎてしまったこと、地図と現地のイメージが全く噛み合っていなかったことなどもありますが、何より今までスプリントやそれに向けての準備をしてこなかったことが大きいと感じました。

2日目・スプリントリレー

前日の夜に何が問題だったのかをしっかりと反省し、当日はなにか吹っ切れたものがありました。そのおかげでレースにはとてもリラックスして臨むことができ、全体で1位の好タイムでM16入賞に貢献することができました。

しかし、まだまだ小さなミスや迷いが見えたので、そこを克服できるようにこれからスプリントを走ってく上で克服したいです。

3日目・ミドル

観光の翌日、温度が急激に下がったりお腹を壊したりコンディションが悪い状態で臨むことになりましたが、しっかりミスのないレースにまとめることができ、準優勝できました。

一位の森清くんとの差は一つ一つの手順のスムーズさだと感じました。

・次の目標

インターハイ優勝、全日本ミドル優勝、と確実に安定した結果を出していき、そこから JWOC 代表に選ばれること、そこで世界を相手に結果を残すことです。

2 年後の AsJYOC は受験期で出られるかどうかわかりませんが、日本での開催ということなのでとても出場したいです。

今回の大会では、チーム内や他のアジアの同年代の選手から大きな刺激をもらい、これから自分をもっと積極的にオリエンテーリングに向き合っていくべきだとはっきりしました。本当にありがとうございました。

第2回アジアジュニア・ユース選手権大会 報告書

清古 光

AsJYOC2017（第 2 回アジアジュニアユースオリエンテーリング選手権大会）報告書

東海中学校 2 年 藤原 考太郎

2017 年 9 月 3 日

今回、AsJYOC2017・M16 クラスに出場させて頂いた東海中学校 2 年の藤原 考太郎です。今大会では、あまり良い成績を残すことができずに悔しい思いをしましたが、非常に良い経験を得られたと共に、様々な国の同年代のオリエンティアと交流することが出来て、有意義な遠征が出来たと感じました。また、選考会参加決断から本選終了後までの過程を思うと沢山の方々に支えて頂いていて、本当に感謝しています。以下は、AsJYOC 選考会から本選までの準備、現地での過ごし方、レース内容の詳細等を記してあります。

1. AsJYOC 選考会から本選までの準備

AsJYOC 選考会には、前回大会での東海中高の先輩方の活躍と、国際大会という舞台への憧れがあったので参加することを決断しました。しかし、選考会までの様々な手続きで混乱し、国際大会の経験のある先輩に助けてもらうなど一部の方に迷惑を掛けてしまいました。

選考会を経て、まず AsJYOC に向けてどういった準備が必要なのか顧問の先生、先輩などから助言を頂き、まずはパスポート取得と予防接種、トレーニング計画を立てることにしました。トレーニング計画と言うよりは、合宿や大会が多かったので、それに向けて向上させたいことをハッキリさせて臨むようにしました。具体的には直進の精度を上げる、読図走の技術を高めるなどですが、岡崎中央総合公園の東海インカレで（給水）ポスト飛ばし、鳥追窪の AsJYOC 強化合宿では逆正置など本選までに改善すべきことがたくさん見つかりました。なので、AsJYOC 直前合宿は大変貴重な機会となり、有効に活かすことが出来良かったです。

2. 現地トレーニングと現地での過ごし方

初日のスプリントトレーニングでは、前日の移動での疲労が回復しきっていなかったのと、ホテルの朝食が衝撃的でほとんど食べられなかったのもあり、体力が持続せずに 2.6 km ↑ 50m のコースを 40 分以上かけてやっとの思いで帰ってくる散々なレースをしました。地図記号と現地のイメージを一致させることはできたのですが、もっと体力があればさらにレベルの高いことま

で確認することができたと思います。また、ここで初めて中国や香港チームの選手の走りを目の当たりにし、アジアの選手と自分を比べた時の走力の差を体感しました。

2 日目のミドルトレーニングのトレインは難易度の高い微地形エリアがあり、正置と直進の練習に適していたので、コンパスワークと地形の読み取りに重点を置くことにしました。日本ではあまりないようなトレインで技術を高めることができ、また課題を明確にすることで、レースでも走力以外は自分の思い通りのオリエンテーリングができたので本選に向けて少し自信を持つことができました。

ここまでトレーニングキャンプについて述べてきましたが、3 日目以降のオリエンテーリングについては次章に回すとして、ここからはオリエンテーリング以外について述べていきます。

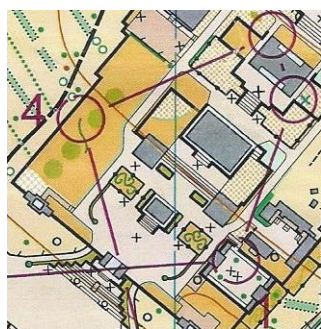
まずは食事についてですが、前回大会の体験談などからなるべく脂っこいものはなるべく避ける（ほぼ油）など腹痛を引き起こさないように努力はしましたが、それでも時々腹痛に襲われていました。胃薬を飲むほどではなかったのですが、持って行って良かったと思います。

次に現地での買い出しですが、とにかく水が要ると思い大量に購入したのですが、大会側からの支給などがあり結局何本か帰国する際に置いていかざるを得なくなりました。また、物価が高くなりつつあるのかと思いきやまだ日本に比べて安かったです。しかし、北京空港は日本並みの物価でした。

3. レース内容

① スプリント

M16 は序盤、寺院（？）でのテクニカルなナビゲーションを求められ、後半はラフオープンでいかにスピーディーなオリエンテーリングができるか、というコースでした。



しかし、地図をしっかりと読み切れず、1 番へのアタック地点が見つからず数秒立ち止まる、4 番の脱出で南東の線状の C 藪を植え込みと勘違いし北東の藪の切れ目から脱出する、8 番の南の崖を通行不能な崖と思い込んでしまう、さらには何回も隣ポにつられるなど小さなミスを連発し、スピードは出せたもののナビゲーションで差をつけられる結果となってしまいました。

② スプリントリレー

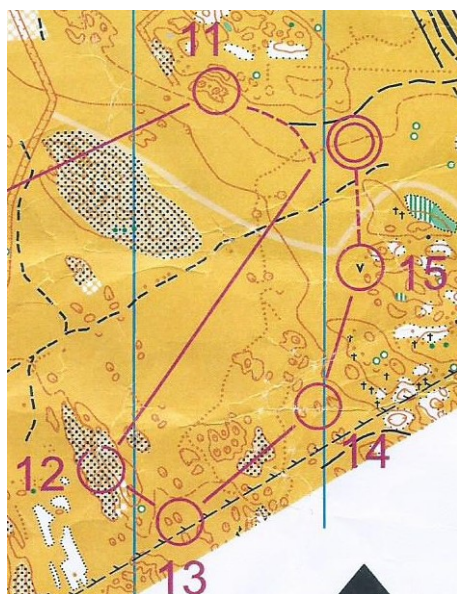
人数の調整の関係で香港の Chung 選手、Wong 選手、清古と非正規ですがチームを組んで走りました。香港の 2 人はとても話やすく、上手く英語を喋ることが出来ない自分達と仲良くしてくれました。初めての海外の選手との会話は新鮮で、楽しかったです。レース内容ですが、難易度が低く非常にスピーディーなナビゲーションが求められるコースで、1 か所隣ボにつられたミス以外は思い通りのオリエンテーリングが出来たので、満足のいく結果となりました。

③ミドル

現地トレーニングで、正置をしっかりとすることと尾根・沢線を捉えることが必要だとわかっていたのでそれを意識して臨みました。



M16 で微地形エリアはほぼ使われませんでした、やはりしっかりと正置をすることは重要でした。しかし、またもや 3-4 で 4 番の南の独立樹の隣ボにつられてしまい、30 秒程度のミスタイムを計上してしまいました。スプリント並みのスピードレースでも番号確認は必須です。



ビジュアル後の 11-12 では直進が東にずれ、同じような凹地群に惑わされながら 13 番に辿り着きました。すぐにリロケートできたので大ミスにはならなかったものの、このレッグで 5

分以上かけてしまいました。結果は M16 の中でも中位で、走り負けした印象を受けました。実際走っていても、自分よりスピードの出ている選手がコントロール手前で立ち止まり、一旦は追い越すもののまた追いついてきて抜かされるという場面があり、やはり走力が足りないと痛感しました。

4. 最後に

あまり良い成績を残すことが出来ずに終わってしまいましたが、非常に楽しく爽快なオリエンテーリングが出来たのと共にアジアの同年代の選手と交流できてとても良い経験となりました。海外の選手と会話するというのはとても新鮮で、楽しかったです。また、アジアの選手に走り負けしないよう走力をもっとつけることが重要だと感じました。

レース内容が中心になってしまいましたが、この報告書が少しでも 2019 年の代表選手、それを目指すオリエンティア、さらにはその後の代表選手の役に立つことができれば幸いです。

AsJYOC2017 報告書

森清 星也

1. きっかけ

AsJYOC に出ようと思ったのは、2 年前の大会で高校生が活躍していたので、僕も AsJYOC に出て金メダルを取るなどの活躍がしたいと思ったからです。

2. 目標

もちろん目標は全種目金メダルでした。

スプリントでは、足の速い中国などの選手に負けないように、JWOC 後から体力を落とさないようにしようと思っていました。

スプリントリレーについては、AsJYOC スプリントの結果を受け、中国がやはり速いので、自分達は失格をせず、最大限の走りをするということを目指にしました。

ミドルは、第一回の結果を見ても日本人選手が 1 番の敵になると思ってました。トレキャンで現地にしっかり対応して本番に臨み、大きなミスのないオリエンテーリングをするのを目標にしました。

3. AsJYOC 準備期間

実質、JWOC が終わってからが AsJYOC 準備期間でした。しかし、色々忙しかったため、静岡合宿にも行けず、十分では無い状況で臨んだことは反省しています。

直前の富士見合宿で初めてメンバーと会い、気を引き締めることが出来ました。AsJYOC で重きを

置かれているスプリントの練習も直前期にしっかり出来て良かったです。

2 回目の海外遠征ということもあり、荷造りなどは問題なくこなすことが出来ました。

4. トレキャン・モデルイベント

トレキャンでは日本では体験できない草原でのオリエンテーリングをすることが出来ました。地図の描かれ方や、だだっ広いオープンをどのように速く行くかなどを調整することが出来ました。

モデルイベントはスプリントのみでしたが、出走方法や地図の描かれ方など直前に学ぶことができ、また、他のチームメンバーの為に撮った写真を共有するなどできて良かったです。

トレキャンやモデルイベントを他国の選手と一緒にすることができ、良い刺激になりました。

5. レース

〈スプリント〉

開会式の時からレースまで自分のペースでレースに向けて準備出来ました。最初、地図を持った時、予想より大幅に難しそうでびっくりしましたが、地図をしっかり読み落ちて大きなミスなくレースが出来ました。立禁など色々問題はありましたが、優勝できて良かったです。

〈スプリントリレー〉

当日は中国選手権が行われていたこともあり、順位が分からないままでのスタートでした。いつもと違う感じのスタートだったこともあり、序盤でミスをしてしまいました。

チーム全体では大きなミスなく、前に中国 2 チームいましたが、見事銀メダルを取ることが出来て良かったです。

〈ミドル〉

ミドルのトレインはほとんどが草原で、アップもほとんどないコースでした。そんな中で足の速い選手にも負けず、1km あたり 5 分を切る走りで優勝することが出来ました。

6. その他

草原観光はスプリントリレーとミドルの間の日に行きました。モンゴル民族の暮らしや食事、文化などを体験することが出来ました。草原を走って駆け抜けたのが、一番思い出に残ってます。

バンケットは、JWOC よりも楽しむことが出来ましたが、積極的に海外の選手に話しに行くことが出来ませんでした。次のバンケットでリベンジします。しかし、地図交換やシャツ交換ができたので良かったです。

他にも、ジンギスカン広場でメンバーと遊んだりバンケット後に集まったりできたりと、レース以外も AsJYOC を満喫することができて良かったです。

7. 最後に

今回の AsJYOC では、金 2 銀 1 という結果を得る事ができて良かったです。この様な結果を残すことができたのも、オフィシャルの方々やメンバーの皆さんなど、様々な方の応援やサポートがあったからこそです。本当にありがとうございました。

AsJYOC は 2 年後と 4 年後にあるので、出る事ができれば後二回のチャンスで金三冠を達成したいです。

第二回 AsJYOC 報告書

2017.8.27

祖父江有祐

1. 今回の AsJYOC の目標

2 年前の第一回大会の時はメダルからは程遠い結果でしたので、今回はとにかくメダルを手に入れることを目標としました。前回の周囲の参加国の様子と自分のこれまでのオリエンテーリング経験から、特にミドル種目では優勝を目指していました。

2. AsJYOC に向けた準備・反省

今回は 6 月の選考から 8 月の大会までと準備期間が短く、また内モンゴルのトレインがどういったものか定かではなかったため大会に特化した準備が難しかったです。そのためどんなトレイン・コースであっても対応できるよう基礎的な部分(整置・ルックアップ等)を重視して準備しました。

体力面では普段の部活動でのトレーニングに加えて自分でもペースを上げて走ったりするように心がけてはいましたが、TT ができなかったことが反省点です。選考直後と 8 月上旬あたりで 2 回行うことができたならよかったかと思います。

3. レースについて

【スプリント】今大会の一種目目でしたが特に緊張したり不安になったりすることもなく、終始落ち着いてレースができました。それでもトップの選手に 2 分も差をつけられてしまったのもっとスピードを上げてナビゲーションをしなければならないと思いました。

【スプリントリレー】前回と違って今回は日本チームとして走れるのでメダルを目指していました。前日の反省をもとに序盤からペースを上げたところ良いタイムが出ました。同じ 2 走内トップの中国人選手に 10 秒差まで迫れたのでまずまずです。フィニッシュ後にいろいろありましたが最終的に自分のチームが銀メダルを獲得することができて嬉しかったです。

【ミドル】20 日の練習から難しいエリアと簡単なエリアの差が激しいことを想定して身構えていましたが、実際は終始オープンな低難易度のコースでした。なるべく遠くの目立つ特徴物を地図上で拾って走るようにしましたがスピードが足りず差をつけられて 4 位となりました。想定していたものと違うタイプのコースであることは仕方がないので地図を開いたときに気持ちを切り替えることが必要だったと思います。

4. 生活面について

2 年前に香港で開かれた第一回大会の時、僕は現地の食事が合わず体調を崩してしまいました。そこで今回は食事には特に気を付けていました。油の多そうなものや香辛料が

強そうなものは避け、好みの味の物であっても食べ過ぎないようにしたところ特に体調を崩すことなく過ごせました。他にも日本から持ってきたインスタントの味噌汁を朝食後に飲んだり毎日夕食時にヨーグルトを食べたりといった、食事での些細なルーティンが慣れない地での生活に安心感を与えたと思います。人によっては食事が合わなく困ることもあると思うので気を付けましょう。

他にも今回の宿舎となったホテルの近くには散策できる場所がいくつかあったので気分転換も充実していました。自分は今回、生活面では食事以外の準備をほとんどせずに行きましたが、やはり常に競技のことにのみを考えるのは疲れてしまうと思います。暇つぶしや気分転換についてもあらかじめ準備しておくことがレースのパフォーマンスを上げるためにも必要かと思います。

5. 国際交流について

今回は前回大会に比べて国同士の選手交流の機会があまり用意されていませんでしたが、それでもこの大会はジュニア・ユース世代の選手がアジア圏の同年代の選手と交流する貴重な機会だと思うので、この先 **AsJYOC** を目指す選手にはぜひ国際交流も目標のひとつにしてほしいです。競技後に一緒に走った選手に話しかけたりできるといいかと思います。また過去 2 回の経験からバンケットが海外選手に話しかける一番のチャンスだと思います。オリエンテーリングという共通の話題があるので、日本のトレインの地図を手に話しかけると簡単に会話が弾みます。英語が苦手であっても案外雰囲気で押し切れますし、アジア圏の同年代の選手の多くは日本と同じレベルの英語力なので怖気づくことはないです。**Facebook** も便利です。積極的に交流しましょう。

6. 今後の目標

国際大会ではまずは来年の **JWOC** に出場することが目標です。**JWOC** に出られるチャンスはあと 3 回しかないので、この先いい結果を残すためにも代表の座を掴み取って経験を積みたいです。

また、2 年後の **AsJYOC** では全種目での金メダル獲得が目標です。

7. 終わりに

最後に、現地でサポートしていただいたチームオフィシャルの皆様、一緒に行った選手の皆様、応援していただいた皆様、本当にありがとうございました。

AsJYOC 報告書

稲森剛

1. 目標

2 年前に香港で開催された前回大会では、スプリントリレー失格、スプリント 4 位、ミドル 1 位という結果であったことから、今回は 3 種目全てで優勝することを目標とした。

2. レースに向けた準備

代表に決まったのは 6 月頃であったが、7 月のフィンランド JWOC に向けて準備することが AsJYOC への準備へとつながると考えた。そのため、JWOC が終了するまでは特別 AsJYOC に向けた準備をする事はなかった。JWOC 終了後、オリエンテーリングの練習として、落合さんが作ってくださったエンバゴエリアの予想地図を持って読図走をしたり、横浜国立大学のキャンパスでスプリントの練習を何回も行ったりした。また、フィジカル面のトレーニングでは、スプリントやミドルを想定して 3~5km 程度の距離を全力で走ることと、体幹トレを中心に行った。さらにトレインの研究として、Google map を用いて、どのような建物があるかや、通行不能な崖や壁、地形などを見ておいた。

3. 各レースの結果と内容

・スプリント 3 位 17:35(1 位+1:13)

スプリントらしい通行不能の壁や建物が入り組んだ部分は中盤に少しあるのみで、コースのその他の部分は藪があったり、木が列をなして並んでいたりするラフオープンな真っすぐに走るコースであった。隣接コントロールが多かった事と、似たように木が並んでいたことから、ラフオープンエリア内のナビゲーションは難しかった。序盤、大体適当な方向に走っていればコントロールに着くだろうという感覚で走っていたら、たくさんの隣接コントロールに引っかかり、30 秒以上の大きなミスをしてしまった。その後、もう一度同じようなミスで 15 秒ほど失った。それで学び、コンパスを見る事を怠らないこと、どの木の列の間を走っているのか把握してサムリーディングを行うようにすることで、それ以降はミスをする事なくゴールまで走ることが出来た。

1 位の中国の選手との 1 分以上の差は、大きなミスを除いても届かないタイムであり、巡行速度の差を感じた。

・スプリントリレー 優勝

第一チームの 2 走を走らせて頂いた。前日のスプリントと異なり、似たような木の並びや大量の隣接コントロールは無く、簡単なコースであった。しかし、前日の反省から、コンパスを見る事を怠らないように意識して走った。その結果、ほとんどミスをする事のない良いレースとなり、途中で中国チームを抜くことが出来た。中国の第一チームは 2 走で出

遅れており、抜いた中国チームは第 2 チームであった。走力的にも技術的にもこちらの方が上で簡単に抜くことが出来た。前日のスプリントで中国のトップ選手は物凄く速い事が分かっていたが、第 2 チームの選手はそこまで速くなく、層は厚くないのだなと思った。優勝できたことはとても嬉しく、表彰式で君が代を聞くのは感慨深かった。

・ミドル 2 位 35:47(1 位+1:34)

ひたすら平らできれいなオープンと真っ白な森を走り、部分的に微地形や砂地があるコースであった。ほとんど上手く走れたが、ラストコントロールの一つ前のコントロールでオーバーランしてしまい 1 分 30 秒ほど失ったのが痛かった。そのミスを除いても優勝したカザフスタン選手に少し負けていたぐらいであることと、スプリントの日にそのカザフスタン選手と並走した時に走力では負けていないと感じたことから、優勝選手の上手さ感じた。ルートを聞いてみて、「向かい風を避けるために、オープンではなく森の中のルートを選んだ」と聞き、そのような発想はなかったなと思った。全体的に直進の少しのずれによってルートが膨らみ、余分に走っているのが僕の遅さの原因のように感じた。

4. 今後の目標

7 月の JWOC に続いて、この AsJYOC が終わったことで、ここ数年間大きな目標としてきた大会が終わった。また、ジュニアとしてのレースもこれで最後であった。これからはしばらく、インカレと全日本大会やアジア選手権を目標に頑張りたい。

最後に、遠征を支えてくださった皆様、応援して下さった皆様、また、共に戦った選手のみんな、お蔭様で有難い経験をすることが出来ました。ありがとうございました。

AsJYOC 報告書

筑波大学 3 年 M20A 出場 楠 健志

○AsJYOC を目指そうと思ったきっかけ

オリエンテーリングを初めて 3 か月が経った大学 1 年の 7 月、オリエンテーリング部の合宿の練習中に足首の靱帯を断裂する怪我をした。1 か月間は松葉杖の生活で、3 か月間は走ることはできないと診断を受けた。当時はオリエンテーリングをする楽しさをまだわかっていない状態だったので、オリエンテーリングをやめることも考えた。しかし、海外で活躍する部内の先輩や同期の話や地図を見聞きし、海外でオリエンテーリングをしてみたいという目標ができ、AsJYOC を目指すようになった。

○今回の AsJYOC の目標

私はフォレストが得意だったので、ミドル競技で入賞することを目標としていた。

また、海外のオリエンテーリングを見て、演出の方法や地図、コースなど日本とは違うものを学ぼうと考えていた。

○AsJYOC に向けたトレーニング記録（合宿、走行距離、トレーニング時間など）

部内で大会準備を行っていたため、AsJYOC 対策の合宿には参加できなかった。走行距離は、中国選手権のプログラムを入手しており、ミドルは長く平坦なコースになることが予想できたので、月に 200km を目標とし、ランニングは長い距離を 1km あたり 5 分程度で 10km、その他は 1km や 3km のインターバル走を行った。トレーニング時間は週に 5 日で 5 時間と決めていた。

○レース内容・成績に対するコメント

・スプリント

初めての海外レースということで、いつものリズムと違ったオリエンテーリングをしてしまった。スプリントは前半確実にこなし、後半でテンポを上げていくことを通常は意識しているが、このレースでは、最初からかなり速いスピードで入ってしまい、現地の風景が日本にはあまりないタイプだったため、序盤で崩れてしまった。

・スプリントリレー

スプリントリレーは日本の第 2 チームの 3 走を走った。前日のスプリントで現地の地図の感覚が分かったので、落ち着いてオリエンテーリングをすることができた。しかし、コースがラフオープンを走らせることが中心だったため、体力とスピードの無さから、結果的にチームに迷惑をかける形となってしまった。

- ・ミドル

ミドルは自分が得意なトレインのタイプだった。前半は比較的上手くこなせたが、スペクテーターを通過したところで、気持ちが急いでしまい、コンパスを正確に振らなかったため、スペクテーター後のレッグで大きなミスをしてしまった。スタート前からスペクテーターがあるかもしれないことを考え、対処していればこのようなミスはなかったと感じる。

○次の目標

私はもう 20 歳であるため AsJYOC や JWOC は狙うことができない。しかし、私が海外でオリエンテーリングをする機会があるというのを教えてもらったように、自分の経験を新入生に伝えていき、オリエンテーリングをすることが楽しいと思える人や海外でのオリエンテーリングを目標とする人を増やしていけたらと思う。

私自身の目標としては、冬頃から時間に余裕ができるので、冬に走り込みを行い、現在 5000m 走が 20 分切れないので、18 分台を目指したい。そして、その状態でどれだけ戦えるのか試してみたい。そして、春の代表選考会でユニバーを目指したいと考えている。

AsJYOC2017 報告書

柴沼健

1. 目標と結果

	スプリント	リレー	ミドル
目標	6位以内	1軍で優勝	3位以内
結果	8位	1軍で優勝	4位
目標達成タイム	18:45	—	36:59
自分のタイム	19:29	—	37:04

今回の遠征での大きな目標は、何かしらの種目でメダルを取ることだったが、この目標はリレーで実現させることができた。しかし、自分の中で一番結果を出したいと思っていたミドルでは、小さなミス一つ分のタイム差で3位入賞を逃してしまった。

2. 大会に向けての準備

大会に向けてはミドルに焦点を当てて準備を行った。インターバルトレーニングによってスピードを上げるとともに、30~40分の時間を高負荷下で走ることに体を慣れさせた。結果、本大会のミドルではそれなりのスピードを維持しながら走ることが出来た。

3. 反省点

ミドルでは体力というより技術力が原因で目標達成を果たせなかった。大きなミスは、直進で方向がそれ、隣ポに吸い込まれるというもので、これを2回やってしまったことで1分以上のロスを生んでしまった。事前の準備において、直進動作の基礎練習を行っていたらこのようなミスを防ぎ、目標を達成できていたのではないかと思う。遠征前から直進が必要になるという情報は耳に入っていたので、そのようなトレインに関する情報をもとに、より適切な準備を行う必要があった。

4. 感想

AsJYOC2015、JWOC2016に続き三回目の国際大会だったが、現地での調整は今までで一番上手くいったように感じた。結果、リレーでは一軍のメンバーとして増澤・稲森・宮本の3人と優勝することが出来、とても嬉しかった。次のAsJYOCは日本で開催されるが、今回出場した若い人たちや、他のジュニア選手も是非そこで良い経験をして欲しいと思う。

最後に、今回も多くの人にお世話になりました。ありがとうございました。

【AsJYOC を目指したきっかけ】

もともと国際大会に出てみたくて、麻布でオリエンテーリングをしていた高校時代に JWOC セレに出たことがあった。僕は今年で 20 歳になるのでジュニアで世界大会に出れるのは最後のチャンスなので、まずは JWOC セレに挑戦。通らず悔しがっていた頃に AsJYOC の存在を知り、目指すことにした。

【目標】

アジアの中で日本が強豪国だというのは聞いていたが、自分がどの程度まで行けるか想像もつかなかったので具体的な順位は定めなかった。

ただ走るからには上を目指すようにオフィシャルの岡本さんからアドバイスを受け、日本チームで共にハイラルに行った M20 の他の 4 人は皆早生まれで 1 つ上の先輩だったため、普段勝てない彼らに勝つことをことを目指した。

【結果・感想】

スプリント 12 位

スプリントリレー 混成チームにより正規記録なし

ミドル 13 位

全体として、初の国際レースで見るもの全てに圧倒されて落ち着いたレースができてなかった。スプリントでは途中まで稲森さんを除く M20 の先輩 3 人に勝っていたようだが、結局レースをまとめられずいまひとつの結果に終わってしまった。

スプリントリレーでは M20 には 4 人しか出れず誰か 1 人が混成チームで走らなければならないことはわかっていて、事前にそれは自分になるだろうということを覚悟はしていたが、日本チームがそれぞれ表彰されているのを見てとても悔しい思いをした。自分は表彰されようにも勝負する土俵にも立てていなかったことでこの時感じた悔しさが、今回の遠征で一番強く記憶に残った。

【今後の抱負】

ジュニアの世界大会は年齢的にもう出れないですが、まずは他の大学生に負けないように、インカレで活躍できる選手になることを目指します。

そのために今回の AsJYOC 遠征で得た楽しさを悔しさを忘れずに、精進を続けていきます。

1. AsJYOC を目指したきっかけ

日本代表として、世界で戦うという舞台に憧れた。また、アジアの大会ならば上位に入って IOF メダルを獲得できるかもしれないということから今大会の代表を目指した。とはいえ、始めは中国の内モンゴル自治区ハイラルという聞きなれない場所の開催のために果たして現地での安全が確保されるのかという不安から、目指すかどうかはかなり迷っていた。しかし、この機会を逃せば二度と行くこともないであろう地域に足を運べるということ、未知のトレインへの興味、クラブの外に出て個として戦うことに惹かれて代表選考へのエントリーを行った。

2. 今回の AsJYOC での目標

前述した通り、メダルの獲得を目指していた。フォレストのトレインの様子がよくわからないこともあって、ミドルよりはスプリントに意識を向け、中でもリレーでのメダル獲得に関わりたいと考えていた。

3. AsJYOC に向けたトレーニング記録

(1) 出発まで

7 月までは JWOC に向けたトレーニングを行っていたが、帰国後から大学の課題に追われて 2 週間近く潰し、その疲れが AsJYOC 遠征出発の 1 週間前から前日まで続く夏風邪という形で顕れた。そのため、JWOC 終了後から AsJYOC までの間に行えたフォレストのオリエンテーリングは富士見高原でのロングレース 1 本のみであり、とても満足に準備できたとは言えない。一方、スプリントは合間を縫って練習し、本郷キャンパスで 2 本、とある大学で密かに 3 本、汐入公園で 2 本、天平の丘公園で 1 本と意識的に練習機会を増やしテクニック面の向上を目指した。

上述の理由から、ロードワークトレーニングはほとんど行えていない。

(2) トレキャン期間

原則、レース期間に身体のパークを近づけるためになるべく肉体的な負担をかけないようにした。

初日の森林公園でのスプリントはミドル的な地図を用いたもので、強く意識しないと 1:10000 の感覚で走ってしまいミスと呼んだ。どうにも日本で練習したスプリントはあまり意味がなかったのかもしれない気がついた瞬間であった。2 本計時レースがあったが、いずれも力は抜いて息が切れない程度に走った。

2 日目の午前の中ドルの練習は微地形と草原のエリアに分かれたトレインだった。フォレストに入る機会が少なかったことからどうにも勘が鈍く、ミスが多い。ここでも息が切れない程度にしか走らないようにしたが、筋肉に疲れが溜まってきた。

午後はスプリントでのモデルイベントだった。当日のシューズを決める目的で参加した。足場が

とても悪く走りづらいようなので、超軽量ランニングシューズではなく、ピンなしのトレランシューズを選択することとした。

足の疲労に関してはキネシオテーピングでサポートすることにより緩和を試みた。また、胃腸のケアとして整腸剤は飲み続けた。

4. レース内容・成績

日本 M20 の 5 人でのラップ比較

(1) スプリント

(3-4 は稲森高見澤以外の 3 人は大ミス)

1: 陈程 China 16:22.2

2: 廖评伟 China 17:12.2

3: 稲森剛 Japan 17:35.4

10: 新田見優輝 Japan 21:12.9

序盤の注意が必要な林地帯でスピードを抑えられず、ラフなプラン・アタックを繰り返した結果、4 ポまでで 3 : 30 のミスタイムを計上し、結果を求めるレース自体は終了した。その後も悪い流れを変えることができず、ポストで十分に止まれないオリエンテーリングだった。中盤の寺院の中に入って一般的なスプリント区間があつてからは多少改善できたが、近接コントロールに引っかかり現ロスするなど、ほとんどいいところなしのレースになってしまった。

レース後に反省し、リレーに向かうにあたり、ポストでしっかりプランをすることを自分に言い聞かせた。あまりスピードを出せた感触はなかったが、M20 の 5 人の中で巡行速度は出ていたようなので、あまり気落ちせずに翌日に備えた。

YukiNitami
91
313
266
118
101
110
104
95
123
95
100
93
91
97
93
96
119
-0:05
1:25
1:39
0:09
0:05
0:29
0:04
0:00
0:35
0:00
0:01
0:00
-0:02
0:02
-0:01
0:00
4:29

(2) スプリントリレー

出発までの実績から 2nd チームの 2 走となった。最初から狙っていたので、アップの段階から体がよく動く感触があった。昨日のミスの原因を思い起こし、日本チームトップを狙って出走した。

しかし、2、3 走のタイム順は

1: 杨晓旺 China 17:06.3

2: 廖评伟 China 17:41.4 (失格)

3: 稲森剛 Japan 17:52.2

4: 柴沼健 Japan 17:56.5

5: 新田見優輝 Japan 18:08.2

と不本意ながら 5 番手だった。コースは非常に簡単でミスは許されず、いかに走れるかを問われるものだったため、自分向きだったと言える。しかし、体が動いてスピードに乗りすぎた 700m 走る△-1 で地図の対応で細かくミスして（逆算すると）30 秒、コントロール位置説明を読まなかった 3-4 で壁の内外を間違え 40 秒、序盤のスピードにバテて失速するなど、自分らしいものの、上

手いとは言えないレースだった。しかし、最後まで力を出し尽くせたため特別悔いはない。

2 走の役目は 1 走が作ってくれたレースを少しでも良くして 3 走につなぐことであると思うが、結果としてはその役目を十分に果たせたとは言い難いかもしれない。自分の気持ちを持っていくので精一杯だった JWOC のリレーとは違い、今回は気持ちに大きな余裕があったため、チームメンバーに気を配ろうと試みたが、どれだけ上手く行ったのかはわからない。リレーを組むにあたり今後の課題に思う。

また、タイムでは日本の 1st チームと中国の 2 チーム（うち片方失格）に負けてしまい、参考記録となったものの、着順で 3 位となって皆がまとめた走りをできたことは嬉しく思う。もっとも楽しみにしており、もっとも楽しかったレースである。あと、最もしんどかった。

(3) ミドル

- 1: LUKASHEVICH VITALIY Kazakhstan 34:13.5
- 2: 稲森剛 Japan 35:47.0
- 3: 新田見優輝 Japan 36:59.4
- 4: 柴沼健 Japan 37:04.1
- 5: Xiaowang Yang China 37:08.4

とても涼しい天候の日で、暑いと脳がショートする私には幸いだった。スプリント 2 レースの反省を活かし、序盤はペースが上がりすぎないように注意すること、プランをしっかりすることの 2 つを意識して淡々とペースをコントロールして走った。コンパスのリングが固定されず直進が大きく外れてミスもあったが、途中からは特徴物も拾っていくことでそれ以上の火傷せずに済んだ。柴沼とのタイム差やラップを見れば、皆が疲れる終盤に巻き返しメダル争いを制せたことがわかる。実際、ラストコントロールまで息はほとんど苦しくならなかった。そのおかげで入賞したとも言えるし、そのせいでこのくらいのタイムだったとも言える。

淡々と走ればミスは減るし早い。しかし、最後まで絞り出せなければ勝てない。体力の底上げはもちろん必要だが、自分の身体の限界下でどれだけ頭脳のみを冷静に保ち集中できるのか。そこに挑戦できる実力を身に付けたい。

YukiNitami
する相対値(%)
103
99
105
220
105
104
103
100
104
107
92
98
96
95
76
101
91
101
95
105
0:25
0:02
0:07
1:46
0:18
0:04
0:05
0:13
0:02
0:05
-0:02
0:02
-0:01
-0:04
-0:08
0:02
-0:03
0:02
-0:01
3:13

5. 次の目標

2018 のユニバーを目指したい気持ちは強くあるが、現状の実力不足は否めず、大学の課題もあるので、来年度はおそらく国際試合に出られることはないと思われる。

しかし、今回の遠征で終わりにしようと思うにはあまりに JWOC も AsJYOC も充実したものだ。必ずや数年後に、もっと速くなって戻ってこよう。

当面の間、日本国内で戦えるようになることが目標である。

AsJYOC 報告書

落合英那

・きっかけ

中学生になってから、オリエンテーリングができるようになり楽しくなっていた。また、速くなりたいとも思っていた。そんなときに、この大会がありおもしろそうだと思うため、参加を希望した。

・目標

スプリント、ミドルは入賞

リレーはトップとできるだけ離されない

・トレーニング記録

全日本の前にロブさんのトレーニングをうけた。この練習内容や練習で学んだ考え方がとてもためになり、全日本でとても役に立った。代表が決まってからは、その後にあったほぼすべての3つの合宿（強化合宿、直前合宿、トータス合宿）に参加した。この3つの合宿で技術やモチベーションなどが高まったと思う。また走り始めたのは、7月22、23日にあった強化合宿が終わってからだ。そこからは、週2日くらいのペースで約4.2キロ走った。今思うと、ミドルが5キロだったためあともう少し長く走っておけばよかった。

・結果、反省

スプリント 4位

3位との差が6秒で、目標にもとどかずとても悔しい。この6秒は、もっと集中し速く走ることで埋められたタイム差だと思う。2番コントロールで行き過ぎてフラフラしてしまったことは、ちゃんと集中できていなかった証拠だと思う。また、デフを見ずに、自分が円の中心だと思うところへ行ったことが大きなミスとなってしまった。デフを見る習慣をつけたい。

スプリントリレー 2位

1番コントロールへ行くときに少しミスをしてしまったが、すぐにミスに気づき対処できたのでよかったと思う。だが、ミスをしたことで上手に集団にのることはできなかった。また前日よりスピードを上げたレースができた。しかしトップとの差は、2分もついてしまった。2分もの大きなミスはしなかったもので、走力差がでた結果となった。

ミドル 4位

ほぼ直進すれば行けるものばかりだったが、ただ直進するだけでなく周りのものも見ながら複数の情報に気をつけて行けたので正確さが増したと思う。しかし、不安になって何回も地図を見て確認するところもあった。確認するときには止まるので、ロスになってしまった。もっと自信を持って進んだり、わからないところで止まるのではなく確実に分か

るところまで走って行ったりの方がよかった。このミドルもスプリント、スプリントリレーと同じく走力のなさを痛感するレースとなった。

・今大会を通して、今後の目標

今大会を通して、大きく成長できたと思う。日本だと、1人のレースが多くただ走って完走すればよいという気持ちがあった。だけど、この大会に参加し4位でとても悔しい思いをした。この大会に出て悔しい気持ちを味わったことで、もっと頑張らないと速くならないということを学べた。この大会に出ていなければ、大学生になるまでダラダラやっていたかもしれないので、この大会に出場したことはとても意味のあるいい経験になった。

今後の目標の一つ目は、来週あるインターハイで、ウィニングタイムを上回る記録でフィニッシュし、優勝すること。1レグ1レグ集中して全力で走ろうと思う。また、難しいトレインなので、地図をよく見てシンプルにプランを立てることに気をつけたい。二つ目は、来年のJWOCの日本代表に選ばれること。そのためには、走力やナビゲーション能力など様々な力をつけていく必要がある。あと半年、最大限の努力をしていこうと思う。三つ目は、2年後のAsJYOCで優勝すること。次回は日本開催ということもあり、絶対に金メダルをとりたいと強く思う。この大会に参加したことで、今あげた以外にも様々な高い目標ができた。

・お礼

最後になりましたが、支えて下さったすべての皆様のおかげで今大会を終了することができたと思います。本当にありがとうございました。

○AsJYOC を目指そうと思ったきっかけ

昨年の12月に、トータスの合宿に参加して本格的にオリエンテーリングを始めました。そこで、オリエンテーリングが面白いと思い、スキーオリエンテーリングも始めました。その流れで、全日本大会にエントリーしました。結果はDISQで、父から「完走したら中国だったのに。」と言われ、初めてセクションと知りました。だったらもっと頑張れば良かったと思い、その後積極的に大会や練習会に参加しました。

○今回の AsJYOC での目標

ぎりぎりでメンバーに選んでもらったので、チームに迷惑をかけないようにという思いでした。最低限、完走はしようと考えていました。

また、今回の大会を通して、体力や技術力を向上させたいと思っていました。日本とは違う特徴をもった海外のトレインに挑戦したいとも思っていました。

○AsJYOC に向けたトレーニング記録

中学校の部活が6月までであったので、トレーニングはそれが終わってから始めました。また、オリエンテーリングはあまり経験していなかったもので、以下のとおり技術練習を主体として行いました。

- 7月15日 留年大会（山形）
- 16日 留年大会（山形）
目標：オリエンテーリングの経験回数をふやす。
- 22日 JOA合宿(静岡)
目標：ミドル対策。123の精度を上げる。
- 23日 JOA合宿(静岡)
目標：スプリント対策。丁寧にコンパスを見る。
- 29日 長岡OLC地図読み練習会(新潟)
目標：スプリント対策。WOCやJWOCの地図を使用し、地図読みのスピードを上げる。整地の練習。
- 30日 みつけOLC練習会(新潟)
目標：正確に道を辿る。
- 8月 5日 香港合宿前日練習会（栃木）
目標：ミドル対策。等高線（傾斜変換）を確認する。
- 6日 香港合宿（栃木）
目標：ミドル対策。様々な地形を確認する。
- 12日 JOA直前合宿（長野）
目標：ミドル対策。123の精度を上げる。
- 13日 JOA直前合宿（長野）
目標：スプリント対策。整地の確認。

○レース内容・成績について

[スプリント]

レース前は、思ったよりも緊張しなかった。最後まで走り切れて、整地をしっかりとってきたので、成績は悪いけれど自信がついた。建物がたくさんあるところでルートチョイスに時間がかかった。それでも、地図読み練習が役に立った。荒地が意外と走りやすかったため、直進主体で走った。集中していたため、余計なことを考えずに走れた。

[スプリントリレー]

メンバーになれると思わなかったのが驚いた。チームの人が関わることなので特にプレッシャーが大きく、とても緊張した。1走がメダル圏内かと言われ、3走でも良い位置にいるようだったため、さらにプレッシャーが大きくなった。走り始めると、1ポで通行禁止の場所を通っていないか不安になり、コントロール周りのイメージが疎かになった。1ポの周辺に隣ポがたくさんあって、時間がかかった。ビジュアルを通った時、チームの人が応援してくれて、プレッシャーも感じたが、それ以上にもっと頑張ろうと思うことができた。ゴールした時は、達成感があつた。表彰式は、緊張した。

[ミドル]

緊張しすぎて、逆にスタート直前は緊張しなかった。1ポの途中で地図を確認した時に、地図上で5ポが目に入り5ポへ向かってしまった。5ポに着いてから間違いに気づき1ポに向かったため、大きなロスとなった。後半は、集中力が切れて人につられることがあった。ゴールした時は、長いコースを走りきることができ成長したなと思えた。

○次の目標に対する意気込み

直近では、インターハイで、満足のできるレースをしたい。その後は、受験勉強との両立を図りながら、技術と体力の向上に努めたい。

2年後のA s J Y O Cにも出場できるよう頑張りたい。いつかはJ W O Cの代表になって、アジア以外の国々でもオリエンテーリングをしたい。あと、丸山さんと同じ高校に入って、オリエンテーリング同好会かオリエンテーリング部をつくりたい。

○おわりに

国沢さん、合宿の時から目をかけていただき、また、ミドルのスタート前には、一緒にランニングをしていただきありがとうございました。

ちゃこさん、技術指導だけでなく、いろいろな質問に答えてくださり、ありがとうございました。

新井さん、スプリント練習の時、1コース全てにつきそってご指導してくださり、ありがとうございました。

岡本さん、レース後にレースの様子や感想などを気にかけてくださり、ありがとうございました。

また、オフィシャル以外の皆様にも、コーチングや送迎、いろいろな手続きなど、本当にお世話になりました。チームの皆さんにも、いろいろご迷惑おかけしましたが、貴重な体験を共にしていただき、嬉しかったし、思い出に残るものとなりました。

出会った全ての皆さん、支えてくださりありがとうございました。今後とも、よろしくお願いします。

AsJYOC の感想

W16 丸山里那子

■AsJYOC を目指そうと思ったきっかけ

全日本大会で、メンバーに選んでいただいてから、「代表なんだから恥ずかしくない程度にはできるようにならなきゃ」と感じ、本格的に練習を始めた。その中で、いろいろな人と知り合い、オリエンテーリングの楽しさを教えてもらい、大会でいい成績を取りたいと思うようになった。

■今回の AsJYOC での目標

練習で学んだことをもとに、ツボらないことを目標にした。また、出来ればメダルも…と思っていた。

走力には自信がなかったが、自分の力を最大まで出すことに集中するようにした。

■AsJYOC に向けたトレーニング記録（合宿、走行距離、トレーニング時間など）

日常では、あまり自主練をする機会はなかった。

だが、合宿などで、短期間でも、内容の濃い練習ができた。

合宿・練習会日程

- 7 月 22 日 J O A 合宿(静岡)
- 23 日 J O A 合宿(静岡)
- 29 日 長岡 O L C 地図読み練習会(新潟)
- 30 日 みつけ O L C 練習会(新潟)
- 8 月 5 日 香港合宿前日練習会（栃木）
- 6 日 香港合宿（栃木）
- 12 日 J O A 直前合宿（長野）
- 13 日 J O A 直前合宿（長野）
- 14 日 トータスジュニア合宿(山梨)
- 15 日 トータスジュニア合宿(山梨)
- 16 日 トータスジュニア合宿(山梨)

■レース内容・成績に対するコメント（スプリント、スプリントリレー、ミドル）

・スプリント

何回か隣ボにつられてしまった。細かく、正確な整地ができていなかった。

しかし、何人もの選手が立禁を通っている中、それにつられずに、立禁を迂回することができた。

通常なら失格になっているところだったので、地図記号の知識をしっかりと実践できていて安心した。

・スプリントリレー

走力の差を感じた。スプリントでの教訓を生かしミスは少なくなったが、ビジュアル以降、ペースダウンをしてしまった。

1走だったため、一斉スタートだったが、あまり緊張は感じなかった。これは、1つの強みになると思う。

・ミドル

ほぼ直進で、見晴らしがいいこともあり、ミスはほぼなかった。しかしここでも、草原を長く走り続ける走力がなく、ミスがなかった割に結果は微妙だった。

■次の目標（2019AsJYOC, JWOC, ユニバー, WOC など）に対する意気込み

受験生のため、今年度中はあまりオリエンテーリング活動はできないが、高校生になってから、再びオリエンテーリングを続ける気ではある。

それがどういう形で続けることになるのか（部活としてやるのか、部活とは別に休日などに活動をするのか）はわからないが、できれば、同じ地域である古田島さんと一緒に活動したいと思っている。

2019年のAsJYOCは、日本がホスト国なので、ぜひとも出場して、今回のリベンジを果たしたい。

そのためにも、今回の課題だった走力を上げ、さらに高度な技術を身に付けていきたい。

また、今回の大会で海外選手とも仲良くなれたので、2019年の大会でも、たくさん関わっていきたい。また、もっと話せるようになりたいので、外国語も勉強したい。

A s J Y O C 報告書

吉田菜々子

1、A s J Y O C を目指そうと思ったきっかけ

2月に久々にオリエンテーリングをやって、うまくなりたいなと思っていたこと。海外に行くことができ、同年代のオリエンティアと戦えるので、良い経験になるのではないかと考えたこと。

2、目標

- ・全ての競技で入賞する
- ・メダルを一個はとる
- ・自分でオリエンテーリングをする

3、結果と反省

スプリント競技 10 位

緊張した。慣れない環境や、同じクラスに争う人がいることなど、いろいろ原因は考えられる。しっかりプランを立てずにつられて勢いで走り出したり、リロケイトせずにフラフラしてしまった。落ち着いて正置ができなかったことで、前半はなかなかコントロールにたどりつけなかった。おそらく、前半のレッグで、他の選手と差が出てしまったのだと思う。また、日本ではなかなかない、建物の中に入るレッグがあり、戸惑ってしまった。メンタル的な部分の弱さと、経験不足を痛感した。

スプリントリレー 2 位

4走だった。自分に回ってきたときに、中国2チームに続いて3位だったので、その順位をキープすることを目標にして走った。大きなミスをしないようにだけ意識をし、慎重にレースをした。前日の反省を生かし、正置などをしっかりやることができたので、差は縮められてしまったが、順位をキープしたままゴールすることができた。

ミドル foul

ビジュアルを通らなかったもので、失格になった。しっかり、ルールを把握していなかったことと、後半で集中力が切れていたことが原因である。一方で、レース内容自体はそんなに悪いものではなく、緊張もほぐれていたもので、三競技の中で一番いいレースができた。また、日本のミドルと違って、藪やアップが少なく目標地点が見えているのにたどり着かないということもままあった。走力が足りないと感じた。

目標にしていた、メダルを1つはとることはかなったが、入賞するというものとしっかりと自分のレースをすることは達成することができなかった。

全体を通して

競技に関して言えば、ルールや時間の把握をおろそかにしていたり、気温や自分の体調を考慮できていなかったり甘いところが多かった。また、体力や技術がまだまだ足りなくて、練習するしかない。一番足りなかったのは、経験だと思うので、もっと協議をする回数を増やそうとおもった。生活面でも、毎食同じものが出てきて、少し胃もたれしたり、お湯しか出なくなったりなど困ったことがいくつかあった。日本から食べ物をいくつか持ってきておいて、本当に良かったと思う。また、友達が増えたり、日本ではできないような様々な経験ができたりと、自分にとってプラスになることが多く、更にオリエンテーリングを好きになれたし、いろいろ学ぶことができたので、今回の遠征に参加できてよかった。最後に、誘導には素直に従おうと思う。

今後の目標

今回はチームのおかげでメダルを取ることができただけだったので、2年後の日本での大会では、自分の力で3つ、メダルを取りたい。また、jwocにも参加できるような力をつけたい。

今回、お世話になりましたオフィシャル・チームの皆様、本当にありがとうございました。

AsJYOC 2017 報告書

大阪大学 2 年 出田涼子

2017 年 8 月 20 日から 25 日まで中国内モンゴル自治区のハイラルで行われたアジア・ジュニアユース選手権大会に出場させていただきました。8 月 24 日に行われたミドルには出場できず、スプリントとスプリントリレーのみ参加しました。

1 目標

スプリント 入賞 優勝
スプリントリレー ペナらない

2 大会に向けた取り組み

体力トレの面では、代表に選ばれた以降の 6 月と出国までの 8 月は普段程度のゆるいランニングをし、最低限体力を維持するようにしました。具体的には 1~2 日に 1 回は 7 km 程度走りました。でも、7 月は学業が忙しかったこともあり、大会や合宿を含めても月 70 km 強でした。あまり走りこめてないため、2 回あった合宿や、トレキャンでは走力不足を感じました。筋トレは、普段やっている軽い腹筋・背筋・体幹・スクワットをやったりやらなかったりです。

地図読みトレは、出国直前に松澤さんが組んでくれた予想コースに軽く目を通した程度でした。地図読みとは少し違いますが、スプリントの前日にレースで使われる ISSOM 2007 を軽く見直しました。これは、スプリント特有の通っただけでペナになる記号の復習のためです。

7 月に行われた強化合宿と 8 月に行われた直前合宿は両方参加しました。そこで直進の精度向上や、スプリント中の立ち禁に気をつけるといった課題に取り組みました。また、直前合宿では反省点を書き留めて、わかる範囲内で改善法も考えて書き出しました。レース中に意識できることに限っては、本番のレースの直前に見直しました。

2015 年の AsJYOC の報告書を見せていただいたので、それを全部読み、参考になりそうなことはノートに抜粋しました。このメモは時々見直してレース中に意識することの参考にしました。

3 レース内容・成績に対するコメント

3.1 スプリント

1	楊思露	China	17:40.9
2	IBRAYEVA KAMILA	Kazakhstan	17:57.0
3	IZUTA Ryoko	Japan	20:08.0

上記に示すように、3 位になることができました (15 人中)。

トレインは、事前に伝えられていた通り、森・寺・草原の 3 つのエリアが含まれているコースでした。コース内でのそれぞれのエリアの体感での割合と、求められていると感じた技術は次の通りです。

森	：直進や地形観察	…	25%
寺	：ルートチョイス	…	25%
草原	：整地からの（直進）走力	…	50%

レース中には次のようなことを意識していました。

- ・ CP・AP を複数の角度から確実に設定する
具体的には、「道の分岐」を右。その道の分岐は「建物の角」と同じ位置。
- ・ 番号を確認する
- ・ 立ち禁に注意し、近くにあれば入る前に確実に止まる
- ・ 今を丁寧に実行した上で先読みをする

実際のレースでは、△→1 で直進が外れて現ロスしたり、5 ポと 13 ポの位置を完全に把握していなくて少し止まったり、9 ポに向かう時に現在地を完全に把握できず、少し行きすぎて戻ったりしました。ベストとは言えないものです。しかし、これら以上にモヤモヤする案件がありました。

3→4 のレッグでは森エリアから寺エリアに移動するため、車道を横切りました。この車道の両脇の歩道のうち、寺側はずっと生垣で囲まれており、寺側の歩道に入るためにはレッグ線から大きく西か南に巻かないといけないものでした。しかし、それを監視するための監視員は立っておらず、切りたければいくらかでもこの藪を切れました。さらには、4 ポは門を入れてすぐの位置にあったのですが、この門から車道に出るために明確に車が通れるスペースができており、藪ははなからないように思えました（地図には藪が表記されている）。これだけなら巻いた選手がクレームを入れればいいのですが、歩道を取り囲んでいる生垣は地図上ではよく見ると黒 50%がかかっておらず、地図表記的にはただの D 藪だったのです。そのくせ、表彰式が終わってから大会責任者に確認すると、通ってはいけないと言われました。結局、私としては大会が終わっても通ってよかったのか悪かったのかが分からず、順位もこの藪の扱いで変わるため、ずっとモヤモヤが晴れません。

3.2 スプリントリレー

1	Japan1	1:09:54.0
2	China	1:12:21.2
	Japan2	1:16:25.0
3	Hong Kong, China	1:18:36.0

私は 2 軍の 4 走として走りました。1 軍が優勝したため正式順位はつかなかったですが、ペナったチームを除いてタイム順に並べたら 3 位でした（6 チーム中）。

この日のテレインは前日のスプリントと同じ場所でしたが、使用範囲の違いにより、ナビゲーションよりも総力勝負でした。などと言いつつ、△→1 越えられない崖に向かって走るルートを選んだり、6 ポでデフを見間違えて本来探すべき崖の曲がりの内側ではなく外側を探したりとミスもありました。

私自身のタイムは決して良くない方だと思います。でも、ペナらないという目標は達成できましたし、チームが 3 位になれたのはとても嬉しいです。

ちなみに、レース中は次のようなことを意識しました。

- ・ 番号を確認する
- ・ 直進をする時はコンパスをしっかりと見る
- ・ 落ち着く

4 次の目標に対する意気込み

直近の大会で一番結果を出したいのは、秋インカレです。今回はスプリントもロングも選手権クラスを走れるため、頑張りたいです。ロングのテレインが関ヶ原で関西テレインに近いというのも頑張りたい理由です。秋インカレでの目標は次の通りです。

ロング： 枠入手（上位 15 位以内に入る）
 すずちゃんに勝つ
 スプリント： 入賞

まず、今回の AsJYOC に向けたトレーニングなどで、体力がこのレベルに達していないことがわかりました。このままでは、レースの途中でへばってしまいます。なので、普段やっているように長距離ゆるくジョギングするだけでなく、坂ダッシュやインターバル、階段ダッシュ、筋トレなども積極的に取り入れていきたいです。また、3 日以上走らない期間を作らないようにしたいです。

体力的トレーニングだけでなく、地図読みトレーニングもしたいです。ロングの方は旧図があるので、それを読み込みます。特に、大きくは変わっていないであろう地形のイメージをしておきたいです。スプリントの方は旧図はないので、Google map を使って研究したいです。また、読図走を行い、走りながら地図を読むことに慣れておきたいです。

また、スプリントでもロングでも、ルートチョイスをもっとうまくできるようになりたいです。スプリントではパッと見えたルートの距離の長短が正確にわかるようになりたいです。とにかくいろいろな地図を読み、他人の意見も聞きたいです。ロングでは、ルートが見えるようになる練習だけでなく、見えた最良のルートを実行できるだけの CP・AP の設定をできるように練習したいです。

インカレのほかには、また海外に遠征したいと思います。今回の遠征がとても楽しかったからです。あわよくば、日本代表で行きたいですね。残念ながら、私はもう JWOC を狙える年齢ではないので、思いつく大会は AsOC、WOC、ユニバーなどです。といっても、これらの大会を具体的な目標として語れるほど詳しくないので、まずは情報を集めます。

最後に、まだ先の話ですが、2 年後に日本で開催される AsJYOC には運営に関わりたいです。今回の経験を生かしていい大会にしたいです。

5 最後に

ハイラルに着くまでは、正直、私なんかが行っていいんだろうかとずっと思っていました。選考はギリ通過でしたし、最後までいれないですし。でも、いざ行ってみたら、日本ではできない貴重な経験の連続で、本当に行ってよかったと思いました。

最後になりましたが、たくさん迷惑をかけても、変わらず面倒を見てくれたオフィシャルの方々、楽しい時間を一緒に過ごして、仲良くしてくれた選手団のみんな、応援してくれた全ての方々に深く御礼を申し上げます。

AsJYOC2017 報告書

筑波大学 2 年 小竹 佳穂

○AsJYOC を目指そうと思ったきっかけ

海外でオリエンテーリングをしてみたいと思った。また今年が AsJYOC に出場できる最初で最後の年だったため、チャンスがあるなら挑戦してみたかった。

○今回の AsJYOC での目標

JWOC でまともなレースができず、国内の大会でも大した成績を残せていないため、正直 AsJYOC でも結果が残せると考えていなかった。そのため、自分が日頃からオリエンテーリングをするときに意識していることを海外でも実践することと、日本とはまた違った性質のトレインで経験を積むことを目標としていた。

○AsJYOC に向けたトレーニング

ジョグ (5:30~6:00/km、5 km 程度)・・・週 2 回程

合宿への参加 (AsJYOC 直前合宿@富士見高原リゾート、トータス夏のジュニア合宿@八ヶ岳)

○レース内容・成績に関して

・スプリント

△→1~3 が特徴物や植生が細かいエリアにあり、1→2 で 4 分程の大きなミスをしてしまった。溝や穴についたポストが真上まで行かないと見えないことをすっかり忘れて、遠くに見えた違うポストに飛びついてしまった。そこで焦ってしまい、よくわからない方向に脱出したり目に入った人についていってしまったりして余計に訳がわからなくなった。結局 1 番のポストに戻りそこからやり直してようやくたどり着いた。違うポストについたところでしっかり立ち止まって周りが見えていれば、長くても 2 分程度のミスには抑えられたと思う。

3→4 のレグで寺院のエリアに入るのだが、その手前に通行不能の生垣があり、本来は北か南に大きく迂回しなければいけなかった。しかし、生垣の色が曖昧だったこともあり、大半の選手は生垣を突っ切って寺院のエリアに入っていた。競技終了後に運営に問い合わせたところ、本来ならば失格だが生垣沿いには監視員もおらず、誰が生垣を通過したかもわからないということで通行した選手へのペナルティはなしだった。生垣を通行せず迂回した私を含む数名の日本人選手はこの判断にとっても不服だった。

7→8~13 は木が何列も植えられたエリアだった。隣接ポストが無数にあり、少し方向を間違えると違うポストに行きついてしまいクイック O のようだった。個人的にはこのエリアではミスなく回れて楽しめた。ここでは、ちゃんとした方向を向けていれば目指すポス

トが見えていたので、そこからは走力勝負だった。前を走る選手になかなか追いつけず、もっと不整地を速く走る体力が必要だと感じた。

生垣通行の件がありすっきりした気持ちで終えることはできなかったが、1日目のスプリントのレースで自分の実力がアジアではどのあたりなのかを知ることができた。2番ポストでのミスがなければ入賞圏内にも入れたと考えると悔しかったが、ここで自分にも入賞が狙えるんだという自信がついた。

・スプリントリレー

JAPAN 2 チームの1走を走らせてもらった。△→1、2あたりまでは前の人についていく形になったが、そこからは前を走る選手に離されてしまいここでも体力の差を痛感した。コース自体は簡単で、方向を合わせて走っていけばポスト周りに他クラスや併設大会の選手がたくさんいるので見ればわかるという状況だった。それゆえに技術よりもとにかく走力が要求されるレースだった。11→12で他の選手につられて隣接ポストに行ってしまったが、大きなミスはそれぐらいだった。JAPAN 1とCHINA 1、2に続いて4位で2走にバトンを渡したが、上位3チームとは1分程の差がついていた。

・ミドル

天気が悪く、気温がとても低かった。トップスタートで、スタートの10分前にコールアップと聞いていたのだが、実際現地に行ってみたら30分前にコールアップに変更？になったらしく慌てて準備して3分前枠まで急いで行く形になってしまった。心の準備も身体のアップも不十分、不安だらけでスタートしたが、△→1まで草原をひたすら走っているうちに落ち着いた。木が生えているところは遠くからでもすぐにわかるので、ナビゲーションはしやすかった。4番ポスト手前にラクダ（野生？）がいてとても驚いたが、3→4～6の微地形エリアも特にミスなく回れた。その後も順調に行っていたのだが、ビジュアル手前の12番ポストを見つけられないというミスをし、ビジュアル後も方向を大きく西にずらしてしまい現ロスする大ミスをしでかしてしまった。前半が順調だったため気が緩んだのかもしれない。この2つのミスがなければ入賞できていたので、とても悔しかったが、必ずどこかで大ミスをしでかすという、ある意味自分らしいレースができたんだなと感じた。

○次の目標

今年度はJWOCにもAsJYOCにも行かせて頂き、海外でオリエンテーリングをすることの楽しさ、海外選手のレベルの高さ、自分の至らなさを痛感することができた。両大会で共通して感じたことは、もっと上手くなって今回戦った他国の選手、また共に遠征したチームメイトに勝ちたいということだった。

チームメイトとは、やはりインカレで戦いたいと思う。そのためにはセレクションに通過

することが必要になる。今年度のインカレロングのセレクションは落ちてしまったが、スプリント、ミドルはまだ残っているし、インカレもまた来年チャンスがある。

他国の選手とは、できることなら来年度のユニバーやアジア選手権に参加して戦いたいと思う。そのためには国内の選考会を通過しなければならない。

インカレにしてもユニバーやアジア選手権にしても、まずは選考を通らなければ始まらない。これからはその選考であるセレクションや選考会を目標にして、より一層練習に取り組みたい。

第2回アジアジュニア・ユース選手権大会 報告書

高橋 利奈

AsJYOC2017 報告書

筑波大学 2 年 増澤すず

1. AsJYOC を目指そうと思ったきっかけ

海外でオリエンテーリングをしてみたかった、また自分の実力がどの程度なのかを知りたかったからです。

2. 目標

Sprint	優勝
Sprint Relay	優勝
Middle	入賞 (3 位以内)

3. 目標達成に向けたトレーニング

JWOC に向けたトレーニング期間と被るので、これについて書こうと思います。

・フィジカル面

フィンランドは地面がふかふかで体力の消耗が早いと聞いたので、基本的な体力づくりとして jog とペース走、スプリントに向けてのスピードトレーニングとしてインターバルをおこないました。ペース走、インターバルはどちらかを必ず週に一回、そのほかの日は疲労度によってペースを変えて jog をしていました。最低でも週に 5 日はトレーニングをしていました。

・技術面

直進動作を少しでも早くできるようにするために、100 が練の地図を使って毎回リングを回して 1 2 3 の練習をしました。また最低でも週に 2 回学内 O をして地図を読みながらスピードを出して走る練習をしました。レース中に細々と考えることが苦手なので、毎レース後言語化してじっくりアナリシスを書いていました。

4. 結果と反省

・Sprint 7 位

トップスタートだったということもあり、自分では緊張していなつもりでしたが緊張していたのかもしれない。最初からミスをし、その後も微妙な地図表記に混乱したり隣接ポストに何度もかかったり、最後までミスを引きずってしまい落ち着いてレースができませんでした。

・Sprint Relay 1位

前日の結果がひどいものだったのにもかかわらず、A チームの 1 走を走らせていただくことになりました。1 走だとどうしてもスタートダッシュで飛び出してしまい、一人ミスをする、ということを何回もやらかしているのです、今回は飛び出さずに落ち着いてスタートする、ということを意識しました。

2 ポに行く途中に転んで地図が破けてしまい焦り混乱していたところで中国の選手に追いつかれ、結局ラストで競り負けてしまいました。結果としてはほかの 3 人がしっかりつないでくれたおかげで優勝できたので満足ですが、個人としては少し悔しさが残るレース内容でした。

・Middle 6位

スピードを出して走る区間、慎重に行くべき区間の区別が全くできていませんでした。リロケートが苦手な、ミスをするとう焦って冷静な判断ができず復帰まで時間がかかってしまうことが課題です。

5. 今後の目標

- ・インカレ入賞
- ・ユニバーセレ通過

これらの目標を達成するために、フィジカルトレーニングを怠らず、プラン立てや正置、直進などオリエンテーリングの基本的なところからしっかり見直していきます。

6. 最後に

目標達成には遠く及ばず悔いの残る結果となってしまいましたが、JWOC、AsJYOC と良い経験ができました。レースを振り返ると、今でも悔しさがこみ上げてきます。自分の弱さや甘さが出てしまった結果だと思います。

しっかり結果と向き合って反省して、次のインカレ、来年のユニバーに向けてこれからももっと努力していきます。

強化合宿から本戦期間中に渡り手厚いサポートをしてくださったオフィシャルやコーチの皆様、応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。

AsJYOC2017 報告書

筑波大学 1 年 宮本和奏

1. 目標と準備

今回の大会では、前回の大会（AsJYOC2015）の成績（スプリント 6 位、スプリントリレー優勝、ミドル 2 位）を上回ること、スプリントリレー・ミドルで優勝することを目標とした。また、テレビの事前情報からスピード勝負になることが予想されたので、体力面の強化を図った。

2. 結果

- ・スプリント W20
2.4km ↑45m 5 位
- ・スプリントリレー SR20
日本 A チーム 4 走 2.6 km ↑48m 優勝
- ・ミドル W20
6.3 km ↑33m 3 位

3. 反省

・スプリント

全体的に走力を必要とするコースで、少し直進を必要とするようなところはあったが予想されていた通りのコースだった。前半の藪が密集しているところは地図から読み取りイ、イメージした風景と実際の風景が大きく異なったがミスは抑えることができた。後半、木が列状に植えられているところでは直進することが多かったが方向維持ができずに違うコントロールに行ってしまうことがあった。しっかりコンパスを確認して近隣コントロールに吸い込まれないようにしたい。また、地図上で植え込みと表記されているところを飛び越した選手が多くいたレッグがあり、私は迂回したため 2 分近くロスしている。地図上の表記を遵守するのは当然のことであり、今回は注意喚起のみの対処だったが今後の大会では公平な勝負ができるようにしていただきたいと感じた。

・スプリントリレー

コースはスプリントより簡単で、走るだけのコースだった。第一チームの 4 走ということで優勝することを目標としており、実際に達成できたのはとてもうれしかった。3 走までで 2 位とのタイム差が 3 分ほどあったが、スペクテイターコントロールの時点で 1 分ほどにまで差を縮められてしまい、走力のなさを痛感した。しかし、前回の大会同様、走力で勝る中国は DISQ することが多いので、日本チームは単調なコースでも難しいコースでもミスの少ないレースをすることが勝利するカギとなるのではないのかと思う。あとは、気持ちの持ち方が大切だと思う。

・ミドル

コース距離が 6.3km と長く、スピード勝負の中で細かい地図読みが要求される部分もあるコースだった。地形が比較的細かく、地図上で傾斜線が見にくく凹地とピークの判別が難しい箇所があったが、そこでは慎重に地図を読むことができミスはすくなくあった。自分が明確にわかるものだけを繋いでいったことでミスを減らせたのだと思う。しかし、後半の方向を定めて走るだけのところで大きく外してしまい、1分以上ロスしてしまったところがあった。最後まで集中を切らさずに走りきることができなかった。オリエンテーリングの基本でミスをしないことが重要であると改めて感じた。また、これほどスピードが出て長い距離のミドルはなかなか経験する機会はないので、とてもいい経験となった。

4. 今後の目標

インカレ ロング、ミドル、スプリント 入賞

インカレ リレー 優勝

JWOC2018 ミドル B ファイナル以上

ロング 2 桁順位

5. おわりに

次回の AsJYOC は日本で開催されるということで、日本人がメダルを取る大きなチャンスだと思う。是非アジアでは勝てるという実感を得て、自信につなげていってほしい。そして、海外の選手とも積極的に交流し意欲を高めていってほしい。

AsJYOC に参加できるのは今回で最後で、思ったような成績が残せず悔しい部分もあったが楽しむことができた。今回の大会で明確になった課題を克服できるようにトレーニングし、今後の目標を達成したいと思う。

また、チームメンバーやコーチ、大会に関わったすべての人に感謝します。ありがとうございました。

参考資料 1 代表選手選考について

第2回アジア ジュニア・ユース選手権大会 日本代表選手に選考について



2017年8月20日～24日、中国・内モンゴル・ハイラルで行われる第2回アジアジュニア・ユース選手権大会（AsJYOC）の日本代表選手の選考を、以下のように行う。

AsJYOC URL (0-Eventor) : <https://eventor.orienteering.org/Events/Show/5712>

【1】AsJYOC 選手権クラス

ジュニア

M20, W20 (対象：1997年以降に生まれたもの)

ユース

M18, W18 (対象：1999年以降に生まれたもの)

M16, W16 (対象：2001年以降に生まれたもの)

【2】代表選考会

2017年6月18日（日）矢板市で開催される第43回全日本大会を代表選考会とする。

【3】選考会参加資格

JOA 競技者登録および JOA 強化委員会 U20 アドバンスト登録選手であり、かつ AsJYOC 参加時に日本国籍のパスポートを所持していること。なお、JOA 競技者登録が済んでいない場合には、AsJYOC 出場希望であることを附記した上で5月22日（月）までに登録手続きを済ませること。U20 アドバンスト登録については、下記 URL を参照して、5月29日（月）までに登録を済ませること。なお、上記の JOA 競技者登録は、AsJYOC 出場希望の場合にのみ適用される特別措置である。

強化方針 : <http://www.orienteering.or.jp/NT/files/2017ActionPolicy161208.pdf>

アドバンスト登録 :

http://www.orienteering.or.jp/NT/files/2017ADV_registration.pdf

【4】選考会申込方法

・第43回全日本大会への参加申込を行った後、選考会参加申込シートに必要事項を記入して、下記に添付ファイルとして送付する。

kyouka@orienteer.jp

・申込締切：2017年5月31日（水）メール送信

・選考会への申し込みは無料（アドバンスト登録の登録費に含まれるとする）。

【5】選考基準

○AsJYOC M20, W20 (1997 年以降に生まれたもの)

- ・選考基準 1 : 全日本大会 M/W20E クラス
AsJYOC 出場希望者のなかで上位 3 名
- ・選考基準 2 : 全日本大会 M/W21A クラス
AsJYOC 出場希望者のなかで最大で上位 1 名 (成績によっては、選考しない場合もある)
- ・選考基準 3 : 全日本大会 M/W20A クラス
AsJYOC 出場希望者のなかで最大で上位 1 名 (成績によっては、選考しない場合もある)
- ・選考基準 4 : U20 強化選手, JWOC 代表選手
U20 強化選手・JWOC 代表選手で、強化委員会が特に実力があると認める者、最大 2 名 (選考しない場合もある)
- ・選考基準 5 :
上記の選考基準 1～4 で 5 名に満たない場合、選考基準 1～4 で選考に漏れた全選手を対象に、これまでの競技成績等をもとに選考する。ただし、遠征チーム全体 (M/W-20/18/16 代表選手, およびチーム役員) の構成を考慮して、5 名まで選考するとは限らない。

○AsJYOC M18, W18 (1999 年以降に生まれたもの)

- ・選考基準 1 : 全日本大会 M/W20E クラス
AsJYOC 出場希望者のなかで上位 2 名
- ・選考基準 2 : 全日本大会 M/W20A クラスまたは M/W18A クラス
AsJYOC 出場希望者のなかで上位 1 名 (どちらのクラスから選考するかは、競技成績をもとに決める)
- ・選考基準 3 : U20 強化選手, JWOC 代表選手
U20 強化選手・JWOC 代表選手で、強化委員会が特に実力があると認める者、最大 1 名 (選考しない場合もある)
- ・選考基準 4 :
上記の選考基準 1～3 で 5 名に満たない場合、選考基準 1～3 で選考に漏れた全選手を対象に、これまでの競技成績等をもとに選考する。ただし、遠征チーム全体 (M/W-20/18/16 代表選手, およびチーム役員) の構成を考慮して、5 名まで選考するとは限らない。

○AsJYOC M16, W16 (2001 年以降に生まれたもの)

- ・選考基準 1 : 全日本大会 M/W20E クラス
AsJYOC 出場希望者のなかで上位 1 名
- ・選考基準 2 : 全日本大会 M/W20A クラスまたは M/W18A
AsJYOC 出場希望者のなかで上位 1 名 (どちらのクラスから選考するかは、競技成績をもとに決める)

- ・選考基準 3 : 全日本大会 M/W15A クラス
AsJYOC 出場希望者のなかから最大で 2 名 (成績によっては, 選考しない場合もある)
- ・選考基準 4 : U20 強化選手, JWOC 代表選手
U20 強化選手・JWOC 代表選手で, 強化委員会が特に実力があると認める者, 最大 1 名 (選考しない場合もある).
- ・選考基準 5 :
上記の選考基準 1 ~ 4 で 5 名に満たない場合, 選考基準 1 ~ 4 で選考に漏れた全選手を対象に, これまでの競技成績等をもとに選考する. ただし, 遠征チーム全体 (M/W-20/18/16 代表選手, およびチーム役員) の構成を考慮して, 5 名まで選考するとは限らない.

【6】問い合わせ

日本オリエンテーリング協会 強化委員会

E-mail: kyouka@orienteer.jp

TEL: 080-4321-7991 (藤井) 緊急時のみ

※緊急時以外は極力 E-mail をご利用ください。

注意事項

- ※本要項に記載されている事項は変更される可能性があります. 変更箇所は, 日本オリエンテーリング協会 強化委員会 Web サイト <http://www.orienteering.or.jp/NT/> で公開します.
- ※全日本大会・選考会への参加は自己の健康状態を考え, 絶対に無理をしないでください. 傷害保険は主催者が締結しますが, 補償額に限度があります. 各自で健康保険証の持参を薦めます.

以上

参考資料 2 公式ブリテンおよび成績



2nd Asian Junior & Youth Orienteering Championships

Hailar, China, 20-25th August 2017

Bulletin 1

IOF member federations in Asia

 **CHN**=China,  **HKG**=Hong Kong,  **INA**=Indonesia,  **IND**=India,
 **IRI**=Iran,  **JPN**=Japan,  **KAZ**=Kazakhstan,  **KGZ**=Kyrgyzstan,
 **KOR**=Korea,  **MAS**=Malaysia,  **MGL**=Mongolia,  **NEP**=Nepal,
 **PAK**=Pakistan,  **PRK**=DPR Korea,  **THA**=Thailand,  **TPE**=Chinese

Taipei



1. Welcome to The 2nd Asian Junior & Youth Orienteering Championships 2017

The Orienteering Association of China welcomes all the Asian Federations to the 2nd Asian Junior & Youth Orienteering Championships which will be held in Hailar from 20 – 25th August 2017. Hailar, due to its massive grassland and rural, is well-known as the "Pearl of the Grasslands", We sincerely hope that we can provide a good opportunity and a platform for all orienteers from Asia and outside Asia to participate high-level regional orienteering event and to exchange experiences as well.

From the Organizing Committee

2. Programme

Date	Activity
2017-8-20 (Sunday)	Event Centre open
	Arrival& Registration
	Model Event
	Team Official's Meeting
2017-8-21 (Monday)	Opening Ceremony
	Sprint Relay
2017-8-22 (Tuesday)	Sprint
2017-8-23 (Wednesday)	Rest
2017-8-24 (Thursday)	Middle
	Closing Ceremony
2017-8-25 (Friday)	Departure

3. Organizer

Orienteering Association of China



Address: Tiantan Dongli Zhongqu A-14,Dongcheng District,Beijing,China

Telephone: +86 01067050897

Fax: +86 01067050899

Website: oacn.sport.org.cn

Email: oacmail@126.com

4. Event Officials

IOF Senior Event Advisor—Yue Ting Wang(HKG)

National Event Controllers—Liang Fangyong

Event Organisers—Zhang Guangshuo

5. Competition Classes

Sprint & Middle Events

Classes	Age of Competitor
W16 M16	up to 16 years old, born in 2001 or later
W18 M18	up to 18 years old, born in 1999 or later
W20 M20	up to 20 years old, born in 1997 or later

Mixed Sprint Relay Event

Classes	Age & of Competitor& Team Combination
SR16	up to 16 years old, born in 2001 or later 4 legs per team with at least 2 female runners
SR 18	up to 18 years old, born in 1999 or later 4 legs per team with at least 2 female runners
SR 20	up to 20 years old, born in 1997 or later 4 legs per team with at least 2 female runners

Eligibility

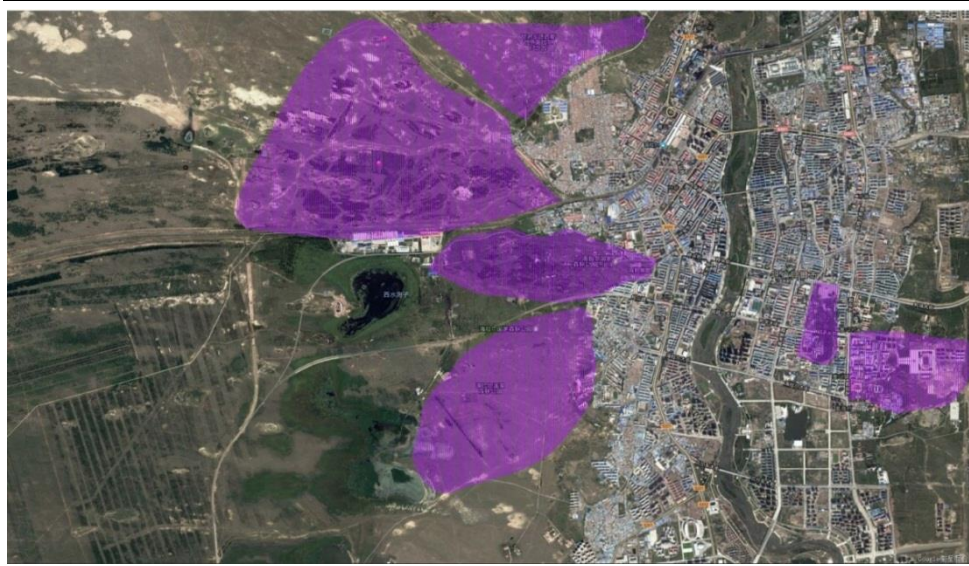


1. *Minimum age of participation is age 14, born in or before 2003.*
2. *In each individual class, each country may enter a maximum of 5 competitors. All entries must be made through the respective Federations.*
3. *In each relay class, each country may enter 2 teams in each class but only the better placed team will be counted in the prize list.*
4. *Competitors representing member Federations of the IOF, defined by the International Olympic Committee as belonging to the Asian continent, can compete in AsJYOC.*
5. *Competitors representing other member Federations of IOF or other Asian countries can participate in AsJYOC but will not be eligible for the AsJYOC titles, medals or diplomas.*
6. *The winners of the age class 20 will be the Asian Junior Champions, and the winners of the age classes 18 and 16 will be Asian Youth Champions respectively.*
7. *If a Federation is unable to make up full relay teams (even with women running in men's classes), it may form incomplete teams or mixed teams with runners from other Federations. Under no circumstances may persons other than entered competitors participate in the competitions. Teams with runners from more than one Federation are not placed on the official result list.*

6. Competition Areas

Event	Date	Arenas
Sprint Relay Event	2017-8-21 Monday	Two River & One Holy Mountain Scenic Spot, Hailar
Sprint Event	2017-8-22 Tuesday	Two River & One Holy Mountain Scenic Spot, Hailar
Middle Distance Event	2017-8-24 Thursday	West Mountain, Hailar

7. Embargoed Areas



8. Technical Information

● Sprint

Venue: Two River & One Holy Mountain Scenic Spot

Mapper: Mr. Ma Yuanyuan

Course Setter: Mr. Liangfangyong

Map scale and Contour Interval: 1:5,000 with 2m contour interval

Terrain Descriptions: Urban park and village. Urban Park with lawn and also traditional village with irregular buildings. Excellent in runnability and visibility.

● Middle Distance

Venue: West Mountain

Mapper: Mr. Lin Yang

Course Setter: Mr. Fangyong Liang

Map scale and Contour Interval: 1:10,000 with 2.5m contour interval

Terrain Descriptions: A moderately hilly area consists of plateau, marshes, semi-open areas, open areas and woodland. There are areas with vegetation of slow run, walk and fight. Various rocky formations and stones are found



on the slopes. There are some thorny weeds inside the undergrowth. Paths might have been created temporarily by grazing cattle.

● Sprint Relay

Venue: Two River & One Holy Mountain Scenic Spot

Mapper: Mr. Shouzhen MA

Course Setter: Mr. Fangyong Liang

Map scale and Contour Interval: 1:5,000 with 2m contour interval

Terrain Descriptions: Mixed with low density blocks and garden areas. Mainly covered by paved area with scatter of open land. Excellent runnability & good visibility.

9. Clothing

For middle distance event, competitors must wear clothing that fully covers their body and legs.

It is forbidden to use shoes with spikes in sprint relay and sprint competitions.

10. Competition Rules

IOF Competition Rules for Foot Orienteering will apply. See IOF Competition Rules on IOF website: www.orienteering.org

11. Entries

All entries which are eligible for AsJYOC must be made through the respective Federations. Entry forms are available on the OAC website. Deadline for entries is on July 31.



Individual entries not making through their respective Federations will not be accepted.

12.VISA

All application forms for preparing China visas (not including HongKong,Macau and Chinese Taipei) will be available from the official website of the Orienteering Association of China. Deadline for completing or making changes to the application forms and names of participants is July 31.

The organizers will provide visa invitations to the national federations upon receipt of the team member personal and passport details (copy of passport, profession and occupation, location of submitting visa application and so on),please download the information form on OAC website : <http://oacn.sport.org.cn>.

13.Entry fees

Asian Youth Orienteering Championships 2017

Registration Fee: ¥ 300/pp (including program, bag, souvenir shirt, number plate, event ID, medal, mascot, certificate, trophies for the first three places)

Accommodation:¥ 1100/pp(Aug. 20-25, 5 nights)

Dining: ¥ 600/pp (Aug. 20-25, 10 meals)



Transportation: ¥ 500/pp, (Aug.20-25, including free service from and to station)

The Grassland Tour: ¥ 300/pp (including a one-day tour, a roasted whole lamb dinner, folk performances, etc.)

The Training Camp: ¥ 2500/pp (Aug.18-19th, including accommodation, transportation, maps, equipment, etc.)

Package A: 2500 RMB

Package B: 2800 RMB (including Grassland Tour)

Package C: 5300 RMB (including Grassland Tour and Training Camp)



2nd Asian Junior & Youth Orienteering Championships

Hailar, China, 20-25th August 2017

Event Information

IOF member federations in Asia

 **CHN**=China,  **HKG**=Hong Kong,  **INA**=Indonesia,  **IND**=India,

 **IRI**=Iran,  **JPN**=Japan,  **KAZ**=Kazakhstan,  **KGZ**=Kyrgyzstan,

 **KOR**=Korea,  **MAS**=Malaysia,  **MGL**=Mongolia,  **NEP**=Nepal,

 **PAK**=Pakistan,  **PRK**=DPR Korea,  **THA**=Thailand,  **TPE**=Chinese

Taipei



1. Welcome to The 2nd Asian Junior & Youth Orienteering Championships 2017

The Orienteering Association of China welcomes all the Asian Federations to the 2nd Asian Junior & Youth Orienteering Championships. Hailar, due to its massive grassland and rural, is well-known as the "Pearl of the Grasslands". We sincerely hope that we can provide a good opportunity and a platform for all orienteers from Asia and outside Asia to participate high-level regional orienteering event and to exchange experiences as well.

From the Organizing Committee

2. Programme

Date	Time	Activity	Location
August 20	08:00 18:00	Arrival & Registration	Shanshui Hotel
	08:00 12:00	Training	
	13:30 18:00	Model event	
	19:00	Take bus to Xiangyuan Hotel	Shanshui Hotel
	19:30	Team official meeting	sixth floor of Xiangyuan Hotel
August 21	08:10 08:50	Opening ceremony	Two Rivers and One Holy mountain Square
	09:40 10:00	Quarantine check-in open	
	10:00 10:40	Call-up	
	10:20 13:00	Sprint event	
	13:00 13:30	Medal ceremony for sprint	Finish of sprint event
	13:30	Return to hotel	
August 22	08:30 08:40	Quarantine check-in open	Two Rivers and One Holy mountain scenic spot
	08:40 08:50	Call-up for 1 st , 2 nd legs	
	08:50 09:00	Call-up for 3 rd , 4 th legs	
	09:00 12:00	Sprint relay event	
	12:00 12:30	Medal ceremony for sprint relay	Finish of sprint relay
	12:30	Return to hotel	



	19:00-21:00	Asian working group meeting	Shanshui hotel
August 23	09:00 17:00	Grassland tour	
August 24	09:30 10:00	Quarantine check-in open	West Mountain
	10:00 10:30	Call-up	
	10:00 13:00	Middle event	
	13:00 13:30	Medal ceremony for middle	Finish of middle
	13:30	Return to hotel	
	18:00-21:30	Closing ceremony&Banquet	Shanshui Hotel

3. Event Officials

IOF Senior Event Advisor Yue Ting Wang(HKG)

Assistant to AE CHOI Yuen Hang

National Event Controllers Liang Fangyong, Yu Chun, Yin Gang, Han Zongli

Mapper Ma Yuanyuan, Yang Lin, Ma Shouzhen

Course setter Liang Fangyong

Event Organisers Zhang Guangshuo

4. Accreditation

all costs will be paid in accreditation. Credit card is acceptable.

Each registered team member must present her/his personal passport(not included in Hongkong, Macau and Chinese Taipei) before she/he can be



accredited.

5. Accommodation and board

Accommodation offer is Shanshui Hotel.

Address: No.1 Xuefu Road, Hailar

Meal times

Meal times		Breakfast starts	Breakfast ends	Lunch starts	Lunch ends	Dinner starts	Dinner ends
2017.8.20	Sunday			12:00	13:30	18:00	19:30
2017.8.21	Monday	06:30	09:00	12:00:00 (take sack lunch from finish area)		18:00	19:30
2017.8.22	Tuesday					18:00	19:30
2017.8.23	Wednesday	06:30	09:00	12:00	13:30	18:00	19:30
2017.8.24	Thursday	06:30	09:00	12:00:00 (take sack lunch from finish area)		18:00	21:30
2017.8.25	Friday	06:30	09:00				

6. Team official meeting

There will only be one Team official meeting held in Xiangyuan hotel at 19:30 on 20th August 2017. Only accredited team officials will be admitted. Organizer will arrange transportation from Shanshui Hotel to Xiangyuan hotel at 19:00.



7. Transportation

Official transportation to and from the training and competition venues will be provided during the whole training camp and competition period.

Additional arrangement for teams on arrival and departure will also be arranged upon request.

8. Punching and Time-keeping System

The Learnjoy punching system will be used in all JWOC 2016 competitions.

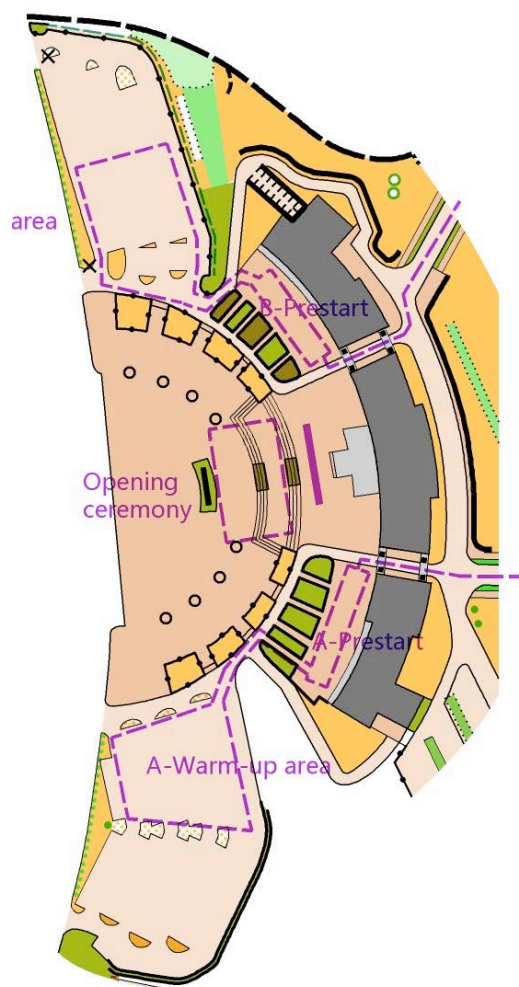
All competitors will receive Learnjoy-cards from the organisers.

9. Ceremonies

Open Ceremony

All athletes and officials not involved in the Sprint are encouraged to participate in the Opening Ceremony in Two Rivers and One Holy mountain Square between 8:10-8:50 on 21 August 2017. All the teams shall take the transportation provided by the organizer to the opening ceremony. The volunteers at the entrance of the arena will lead the teams to the designated assembly area. There will be only one opening ceremony both for the National Orienteering Championships and the 2nd Asian Junior & Youth Orienteering Championships. Teams are asked to assemble in national team

uniform.



Map of the arena

Medal Ceremonies

Medal ceremonies will be held at the finish area in each event. The medal ceremony is organized for the six best athletes or three best relay teams.



Note: National flags, signs, sunglasses, hats, headbands, bottles and other such items are not allowed on ceremony stages.

Closing Ceremony & Banquet

Closing ceremony will be held after medal ceremony for middle. banquet will be held at Shanshui Hotel in 19:30.

It is hoped that as many athletes and officials as possible will attend the Closing Ceremony at finish of middle.

The cost of banquet is Included in Entry fee.

10. Model Event

Time: 13:30-18:00 20th Aug

Transportation will be provided by organizer and departure from Shanshui hotel at 13:30

Model events will provide relevant examples of cartography, terrain, control setting and control descriptions. The technical model will show examples of the Learnjoy punching system.

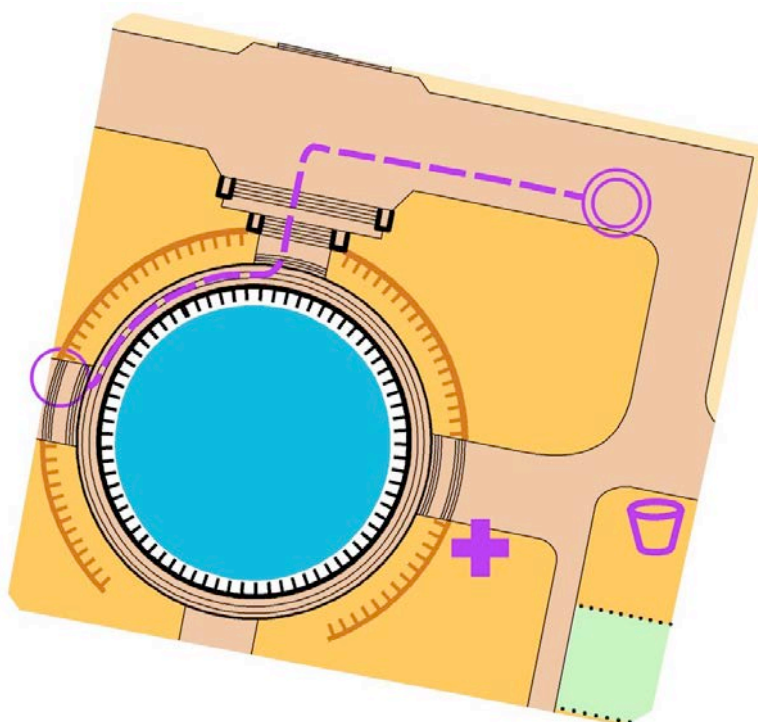
11. Sprint Event

Time: 10:00-13:00 21th Aug

Sprint event will be start after opening ceremony, the athletes shall go to the

warm-up area while the other non-athletes go to the finish area. There will be clothing drop-off service at the pre-starts. Athletes will find their clothing at the finish area after competition. Athletes who finish the competition can not back to start area.

Terrain Descriptions: Sprint terrain in Two River & One Holy Mountain Scenic Spot has three distinctive areas. undulant meadowland, road and forested area .A park area with steep slopes.

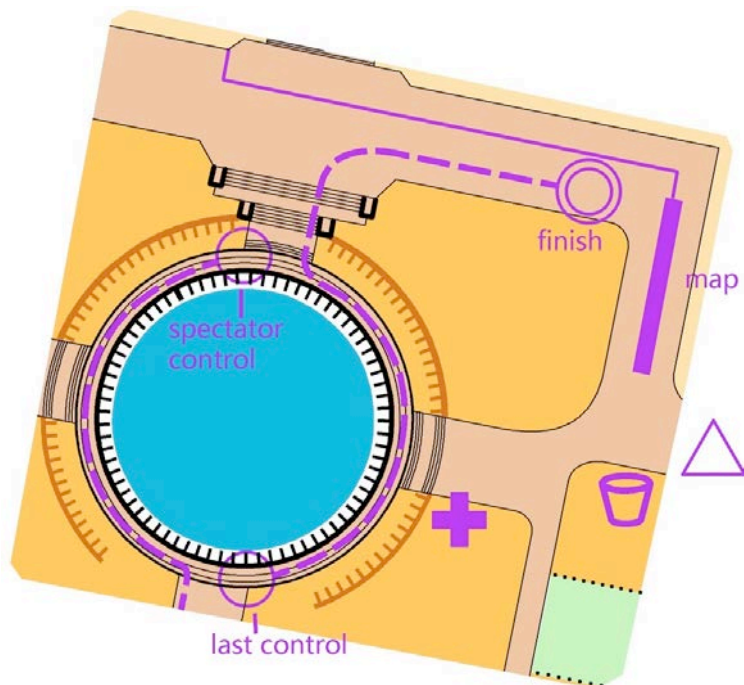


Map of the finish

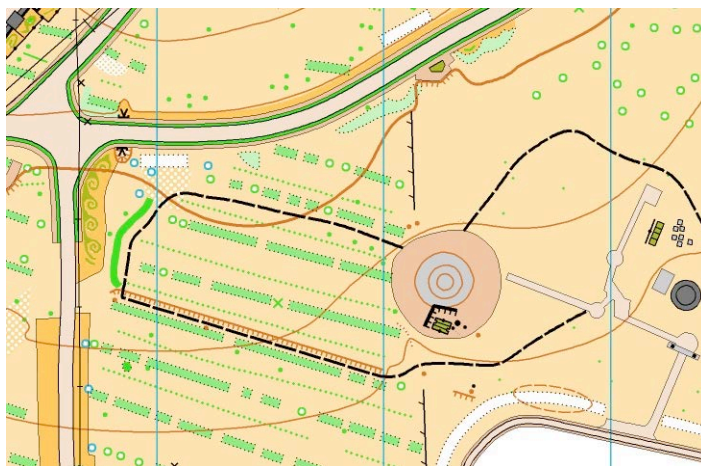
12.Sprint Relay Event

Time:9:00-12:00 22th Aug

A demonstration of the map change procedure will be held at the finish area after the completion of the sprint competition.



Map of the map-change and finish



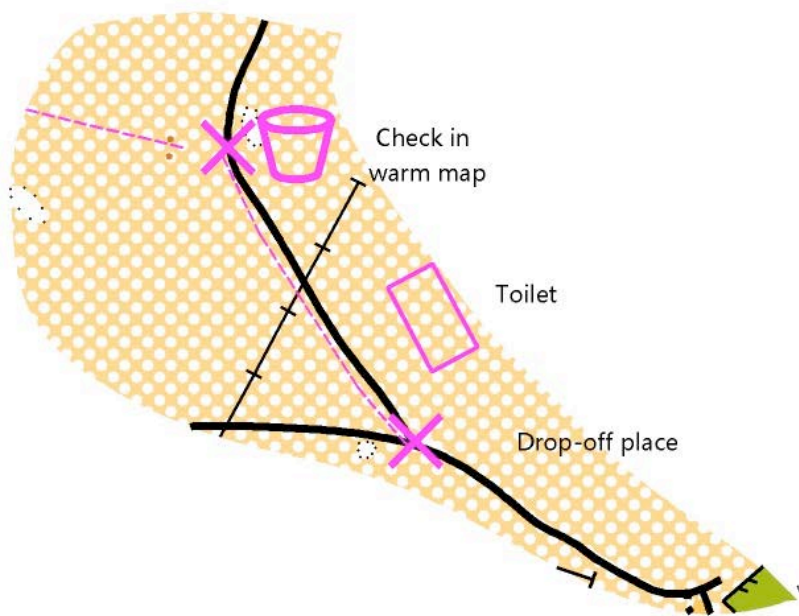
Map sample of sprint and sprint relay

Terrain Descriptions: Sprint terrain in Two River & One Holy Mountain Scenic Spot has three distinctive areas. undulant meadowland, road and

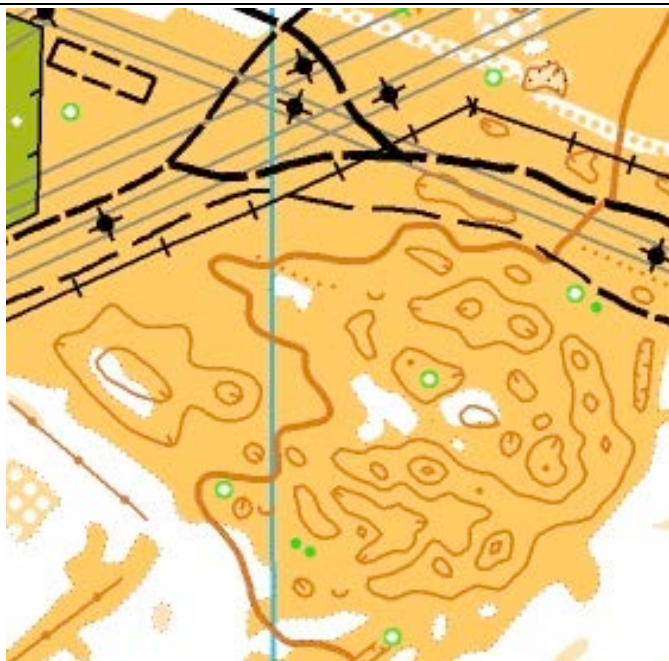
forested area .A park area with steep slopes.

13.Middle Event

Start interval is 2 minutes. There will be a toilet on the way to quarantine1. There will be warm-up map,a refreshment and a bag drop at quarantine1. Athletes follow the marker walk to quarantine2, they can get the control description at here.



Map of quarantine



Map sample of middle

Terrain Descriptions: Middle terrain in West Mountain, Site for grassland, mountain, sandy soil, good running.

14.Course information

Sprint Event

No.	Class	Length	Climb	Controls	Maximum running time(m)	Scale	contour interval(m)	map standard
1	M16	2.3	43	14	50	1:5000	2	ISSOM200 7
2	W16	2.4	44	14				
3	M18	2.6	45	16				
4	W18	2.4	47	14				
5	M20	2.7	49	15				
6	W20	2.4	45	15				

Sprint Relay Event



No.	Class	Length	Climb	Controls	Maximum running time(m)	Scale	contour interval(m)	map standard
1	SR16	3.1-3.2	16	14-16	240	1:5000	2	ISSOM2007
2	SR18	3.3-3.4	18-20	14-16				
3	SR20	3.2-3.7	18-22	16-17				

Middle Event

No.	Class	Length	Climb	Controls	Maximum running time(m)	Scale	contour interval(m)	map standard
1	M16	5.3	25	15	120	1:10000	2.5	ISOM2000
2	W16	5.2	25	15				
3	M18	6.2	32	16				
4	W18	6.1	31	14				
5	M20	6.5	35	17				
6	W20	6.2	33	16				

15. Training Camp

Date	Departure from Shanshui hotel	Course	Departure from training area	Scale	contour interval
8月18日	9:00	sprint	12:00	1:4000	2m
8月19日	8:00	sprint	12:00	1:4000	2m
8月20日	8:00	middle	12:00	1:10000	5m

16. Clothing

There are no special regulations for runners concerning the type of clothing



they must wear.

It is forbidden to use shoes with spikes in sprint and sprint relay competitions and trainings.

17. Waste Management

Keep our arenas clean. Please use our rubbish bins for your waste.

18. Copies of Previous Map of vicinity



Entries



	M1	M1	M2	W1	W1	W2	
	6	8	0	6	8	0	
China	5	5	4	4	5	3	26
Hong Kong , China	4	1	4	2	1	2	14
Japanese	5	1	5	3	1	5	20
Kazakhstan	2	3	1	1	1	2	10
Korea	1	3		3	1		8
Macau , China		3			4		7
Russia			2	1			3
Chinese Taipei	4	3	2	5	4	4	22
total	21	19	18	19	17	16	110

2nd Asian Junior & Youth Orienteering Championships-sprint

M16

RANKING	CARD NUMBER	BIB NUMBER	NAME	E/F/M/A	CLASS	NATIONALITY	START TIME	END TIME	SCORE	EFFECTIVENESS
1	19935	16008	MORIKIYO Seiya	男	M16	Japan	10:43:02.3	10:54:19.0	0:11:16.7	✓
2	16412	16021	杜熙晨	男	M16	China	10:49:01.6	11:00:28.2	0:11:26.6	✓
3	22845	16016	Wong Tsz Chun Jason	男	M16	Hong Kong, China	10:46:01.6	10:57:53.5	0:11:51.9	✓
4	22787	16013	Chu Yau Man	男	M16	Hong Kong, China	11:00:01.8	11:12:28.9	0:12:27.1	✓
5	17304	16007	KANEKO Hayato	男	M16	Japan	10:57:01.6	11:09:50.2	0:12:48.6	✓
6	23054	16017	赵仲梁	男	M16	China	10:45:03.8	10:57:55.8	0:12:52.0	✓
7	23082	16014	Chung Ho Yin	男	M16	Hong Kong, China	10:55:02.5	11:08:22.3	0:13:19.8	✓
8	20828	16004	SEIKO Hikaru	男	M16	Japan	10:48:02.4	11:02:03.5	0:14:01.1	✓
9	21999	16012	LIN, CHIN-TI	男	M16	Chinese Taipei	11:03:02.6	11:17:05.8	0:14:03.2	✓
10	23161	16010	TSAL, YA-CHEN	男	M16	Chinese Taipei	10:56:03.3	11:10:10.8	0:14:07.5	✓
11	22688	16011	LIN, CHEN-YU	男	M16	Chinese Taipei	10:52:02.0	11:06:24.7	0:14:22.7	✓
12	23117	16019	张涛	男	M16	China	10:58:02.2	11:12:45.4	0:14:43.2	✓
13	22573	16015	Leung Chung Wai	男	M16	Hong Kong, China	10:51:01.5	11:05:58.7	0:14:57.2	✓
14	22722	16005	FUJIWARA Kotaro	男	M16	Japan	10:53:01.9	11:08:25.4	0:15:23.5	✓
15	21178	16006	KUNISAWA Riu	男	M16	Japan	11:01:01.5	11:17:49.2	0:16:47.7	✓
16	20234	16018	李合明	男	M16	China	11:02:01.6	11:18:51.1	0:16:49.5	✓
17	22479	16001	KIM MINSEUNG	男	M16	KOREA	10:50:01.5	11:12:08.6	0:22:07.1	✓
18	21147	16009	YANG, CHUN-HAO	男	M16	Chinese Taipei	10:44:02.6	11:08:29.7	0:24:27.1	✓

W16

RANKING	CARD NUMBER	BIB NUMBER	NAME	E/F/M/A	CLASS	NATIONALITY	START TIME	END TIME	SCORE	EFFECTIVENESS
1	17117	16114	Chu Ying Yau	女	W16	Hong Kong, China	10:55:01.4	11:11:18.8	0:16:17.4	✓
2	22500	16119	王传之	女	W16	China	10:43:02.5	10:59:20.9	0:16:18.4	✓
3	22583	16115	Wong Yi Shan	女	W16	Hong Kong, China	10:47:01.7	11:04:44.0	0:17:42.3	✓
4	20628	16106	OCHIAI Hana	女	W16	Japan	10:46:01.8	11:03:50.6	0:17:48.8	✓
5	20851	16118	秦倩	女	W16	China	10:53:04.0	11:11:21.9	0:18:17.9	✓
6	17179	16111	KUO, MAN-WEN	女	W16	Chinese Taipei	10:51:02.2	11:10:32.9	0:19:30.7	✓
7	20574	16117	罗婷	女	W16	China	10:59:01.2	11:18:33.4	0:19:32.2	✓
8	18529	16110	LIANG, YU-CHI	女	W16	Chinese Taipei	10:48:02.1	11:07:39.3	0:19:37.2	✓
9	22979	16109	HSU, EN-CHI	女	W16	Chinese Taipei	11:01:00.2	11:21:44.4	0:20:44.2	✓

10	23139	16102	WIE HYEONJI	女	W16	KOREA	10:44:01.8	11:04:50.6	0:20:48.8	✓
11	22007	16113	CHENG, CHUN-YUN	女	W16	Chinese Taipei	10:45:03.0	11:05:57.3	0:20:54.3	✓
12	22022	16107	MARUYAMA Rinako	女	W16	Japan	10:52:02.2	11:13:13.4	0:21:11.2	✓
13	21308	16101	LEE MINJI	女	W16	KOREA	10:50:01.3	11:12:50.5	0:22:49.2	✓
14	19788	16116	孙诺妍	女	W16	China	10:49:01.7	11:13:51.4	0:24:49.7	✓
15	20619	16112	CHUANG, YU-CHIEH	女	W16	Chinese Taipei	10:56:02.2	11:20:54.8	0:24:52.6	✓
16	23110	16103	RYU YEAJIN	女	W16	KOREA	10:58:01.6	11:25:17.1	0:27:15.5	✓
17	20879	16108	KOTAJIMA Suzune	女	W16	Japan	10:57:01.7	11:26:26.5	0:29:24.8	✓

M18

RANKING	CARD NUMBER	BIB NUMBER	NAME	E/FEMA	CLASS	NATIONALITY	START TIME	END TIME	SCORE	EFFECTIVENESS
1	22481	18017	周鸿程	男	M18	China	10:56:01.7	11:10:50.8	0:14:49.1	✓
2	16774	18018	唐潇	男	M18	China	10:48:02.1	11:03:26.9	0:15:24.8	✓
3	22815	18010	SOBUE Yusuke	男	M18	Japan	10:50:01.8	11:06:47.7	0:16:45.9	✓
4	22954	18019	王一芦	男	M18	China	10:51:02.0	11:08:41.3	0:17:39.3	✓
5	22006	18016	焦雨豪	男	M18	China	10:43:02.8	11:01:42.9	0:18:40.1	✓
6	21220	18015	张岳来	男	M18	China	11:01:01.7	11:20:45.0	0:19:43.3	✓
7	21025	18001	YOON TAEJONG	男	M18	KOREA	10:54:02.3	11:14:41.6	0:20:39.3	✓
8	22531	18012	HUANG, BO-YUAN	男	M18	Chinese Taipei	10:59:01.8	11:20:21.0	0:21:19.2	✓
9	16858	18009	Kong Chak Lon	男	M18	Macau China	10:53:02.4	11:14:33.1	0:21:30.7	✓
10	16671	18014	So Ka Wang	男	M18	Hong Kong, China	10:49:02.4	11:10:49.1	0:21:46.7	✓
11	22545	18004	TOLEUBAYEV ADIL	男	M18	Kazakhstan	10:55:02.8	11:16:53.6	0:21:50.8	✓
12	22753	18011	HUANG, YU-HAO	男	M18	Chinese Taipei	10:46:02.2	11:09:59.0	0:23:56.8	✓
13	23100	18003	HA JEONG SOO	男	M18	KOREA	10:45:02.4	11:10:28.0	0:25:25.6	✓
14	19492	18008	CHAU HOU TIN	男	M18	Macau China	10:44:03.1	11:11:07.5	0:27:04.4	✓
15	19904	18013	CHAN, YU-CHIEH	男	M18	Chinese Taipei	10:52:02.6	11:22:25.0	0:30:22.4	✓
16	22906	18007	Chan Chon Hei	男	M18	Macau China	10:58:02.1	11:30:48.3	0:32:46.2	✓
17	22617	18002	KIM DONGYEONG	男	M18	KOREA	10:57:02.7	11:34:10.9	0:37:08.2	✓

W18

RANKING	CARD NUMBER	BIB NUMBER	NAME	E/FEMA	CLASS	NATIONALITY	START TIME	END TIME	SCORE	EFFECTIVENESS
1	22863	18112	Leung Hei Tung	女	W18	Hong Kong, China	10:50:02.2	11:09:52.2	0:19:50.0	✓
2	23131	18116	王小梅	女	W18	China	10:45:02.7	11:05:27.3	0:20:24.6	✓
3	22795	18109	LIN, CHIEH-FANG	女	W18	Chinese Taipei	10:47:03.3	11:08:28.3	0:21:25.0	✓
4	22929	18114	李曼群	女	W18	China	10:51:02.3	11:12:58.0	0:21:55.7	✓
5	18222	18108	HUANG, MIN-HUEI	女	W18	Chinese Taipei	10:59:02.0	11:21:35.1	0:22:33.1	✓

6	23156	18117	周希钰	女	W18	China	10:55:01.2	11:17:56.7	0:22:55.5	✓
7	20611	18105	Leong Man Wai	女	W18	Macau China	10:49:02.9	11:12:50.4	0:23:47.5	✓
8	22047	18115	王斌	女	W18	China	10:48:03.0	11:12:42.7	0:24:39.7	✓
9	17281	18113	叶紫云	女	W18	China	10:58:02.3	11:23:04.8	0:25:02.5	✓
10	23149	18107	YOSHIDA Nanako	女	W18	Japan	10:46:02.7	11:11:53.9	0:25:51.2	✓
11	23152	18110	HO, YU-YU	女	W18	Chinese Taipei	10:43:01.1	11:11:07.9	0:28:06.8	✓
12	21600	18111	LEE, HSIN-YU	女	W18	Chinese Taipei	10:53:02.2	11:24:49.3	0:31:47.1	✓
13	15873	18103	Chan Kuan U	女	W18	Macau China	10:44:03.1	11:18:51.4	0:34:48.3	✓
14	22821	18104	Chan kam I	女	W18	Macau China	10:52:02.6	11:31:47.7	0:39:45.1	✓
15	19923	18101	KOO MINJUNG	女	W18	KOREA	10:54:02.5	11:34:31.1	0:40:28.6	✓
0	22808	18106	GAN QIANYI	女	W18	Macau China	10:56:02.9	12:16:18.5	1:20:15.6	×

M20

RANKING	CARD NUMBER	BIB NUMBER	NAME	E/F/M/A	CLASS	NATIONALITY	START TIME	END TIME	SCORE	EFFECTIVENESS
1	22822	20015	陈程	男	M20	China	10:48:04.4	11:04:26.6	0:16:22.2	✓
2	21866	20016	廖评伟	男	M20	China	10:44:02.3	11:01:14.5	0:17:12.2	✓
3	21837	20004	INAMORI Go	男	M20	Japan	11:00:02.1	11:17:37.5	0:17:35.4	✓
4	21754	20011	Li Chun Ho	男	M20	Hong Kong, China	10:45:02.4	11:02:41.0	0:17:38.6	✓
5	20177	20012	Li Sing Wai	男	M20	Hong Kong, China	10:53:02.2	11:11:44.1	0:18:41.9	✓
6	18137	20001	LUKASHEVICH VITALIY	男	M20	Kazakhstan	10:59:02.5	11:17:47.3	0:18:44.8	✓
7	16638	20013	Shiu Chit Hei	男	M20	Hong Kong, China	10:57:02.1	11:16:21.9	0:19:19.8	✓
8	22846	20005	SHIBANUMA Ken	男	M20	Japan	10:43:03.0	11:02:31.9	0:19:28.9	✓
9	22948	20014	Yu Tsz Fung	男	M20	Hong Kong, China	10:49:02.8	11:09:42.4	0:20:39.6	✓
10	97846	20006	NITAMI Yuki	男	M20	Japan	10:51:04.3	11:12:17.2	0:21:12.9	✓
11	85894	20007	KUSUNOKI Kenji	男	M20	Japan	10:47:03.4	11:08:42.5	0:21:39.1	✓
12	21463	20008	TAKAMIZAWA Shoichi	男	M20	Japan	10:55:02.9	11:17:04.5	0:22:01.6	✓
13	22839	20009	TSAI, CHENG-CHE	男	M20	Chinese Taipei	10:50:01.9	11:14:45.2	0:24:43.3	✓
0	16458	20018	任天锐	男	M20	China	10:52:02.3	11:14:52.2	0:22:49.9	×
0	22712	20017	杨晓旺	男	M20	China	10:56:02.3	11:12:08.4	0:16:06.1	×
0	17412	20010	TSAI, CHIEN-HSUN	男	M20	Chinese Taipei	10:58:02.6	11:22:56.7	0:24:54.1	×

W20

RANKING	CARD NUMBER	BIB NUMBER	NAME	E/F/M/A	CLASS	NATIONALITY	START TIME	END TIME	SCORE	EFFECTIVENESS
1	21564	20116	杨思露	女	W20	China	10:49:02.9	11:06:43.8	0:17:40.9	✓
2	22924	20101	IBRAYEVA KAMILA	女	W20	Kazakhstan	10:46:02.2	11:03:59.2	0:17:57.0	✓
3	22848	20105	IZUTA Ryoko	女	W20	Japan	10:54:02.6	11:14:10.6	0:20:08.0	✓

4	22680	20115	刘茂	女	W20	China	10:45:02.5	11:05:15.3	0:20:12.8	✓
5	23045	20107	MIYAMOTO Wakana	女	W20	Japan	10:51:03.1	11:11:46.7	0:20:43.6	✓
6	22867	20112	Lam Cho Yu	女	W20	Hong Kong, China	10:50:02.3	11:11:22.7	0:21:20.4	✓
7	22501	20106	MASUZAWA Suzu	女	W20	Japan	10:43:02.5	11:05:04.3	0:22:01.8	✓
8	23158	20114	欧阳琦	女	W20	China	10:56:02.3	11:20:14.7	0:24:12.4	✓
9	21998	20104	KOTAKE Kaho	女	W20	Japan	10:47:03.4	11:11:23.8	0:24:20.4	✓
10	20463	20103	TAKAHASHI Rina	女	W20	Japan	10:57:02.9	11:21:26.1	0:24:23.2	✓
11	22040	20113	Law Hoi Yi	女	W20	Hong Kong, China	10:55:02.0	11:20:56.5	0:25:54.5	✓
12	19922	20110	WANG, LI-CHIEH	女	W20	Chinese Taipei	10:44:02.8	11:10:31.2	0:26:28.4	✓
13	22657	20109	LIN, KUAN-YU	女	W20	Chinese Taipei	10:53:02.7	11:22:04.7	0:29:02.0	✓
14	22938	20108	CHI, LE-MEI	女	W20	Chinese Taipei	10:58:02.3	11:38:42.5	0:40:40.2	✓
0	19971	20111	YANG, SHAO-TUNG	女	W20	Chinese Taipei	10:48:02.7	11:40:59.7	0:52:57.0	×

2nd Asian Junior & Youth Orienteering Championships–Sprint Relay

SR16																	
BIB		RANKING	NATIONALITY	RESULTS	THE FIRST LEG		THE SECOND LEG		THE THIRD LEG		THE FOURTH LEG		REMARK				
NUMBER	NAME				TIME	STATUS	NAME	TIME	STATUS	NAME	TIME	STATUS		NAME	TIME	STATUS	
1	101		China	0:56:30.0	✓	秦倩	0:15:30.3	✓	赵仲梁	0:12:56.6	✓	杜熙晨	0:12:32.1	✓	王传之	0:15:31.0	✓
2	102		Hong Kong, China	0:56:46.3	✓	Chu Ying Yau	0:14:57.4	✓	Leung Chung Wai	0:13:24.9	✓	Chu Yau Man	0:12:41.6	✓	Wong Yi Shan	0:15:42.4	✓
3	103		Japan	1:08:56.4	✓	MARIYAMA Rinako	0:18:32.2	✓	KUNISAWA Riu	0:12:08.4	✓	KANEKO Hayato	0:14:28.1	✓	KOTAJIMA Suzune	0:23:46.7	✓
4	107		Chinese Taipei	1:10:23.9	✓	HSUEN-CHI	0:18:22.7	✓	TSAL, YA-CHEN	0:15:27.3	✓	LIN, CHEN-YU	0:19:03.8	✓	LIANG, YU-CHI	0:17:30.1	✓
5	108		Chinese Taipei	1:31:35.1	✓	CHENG, CHUN-YUN	0:18:28.4	✓	YANG, CHUN-HAO	0:25:32.1	✓	CHUANG, YU-CHIEH	0:26:18.2	✓	KUO,MAN-WEN	0:21:16.4	✓
	105		China	1:01:46.3	✓	罗婷	0:14:34.8	✓	张涛	0:14:03.1	✓	李合明	0:14:58.6	✓	孙诺妍	0:18:09.8	✓
	104		Hong Kong, China	0:55:49.1	✓	Law Hoi Yi	0:15:08.6	✓	So Ka Wang	0:15:57.5	✓	Shiu Chit Hei	0:12:52.1	✓	Yu Tsz Fung	0:11:50.9	✓
	106		Japan	0:55:59.8	✓	Chung Ho Yin	0:12:38.0	✓	Wong Tsz Chun Jason	0:13:25.5	✓	FUJIWARA Kotaro	0:14:40.0	✓	SEIKO Hikaru	0:15:16.3	✓
	110		Chinese Taipei	1:22:16.7	✓	WANG, LI-CHIEH	0:22:03.1	✓	TAKAMIZAWA Shoichi	0:13:12.1	✓	王一声	0:12:47.9	✓	YANG, SHAO-TUNG	0:34:13.6	✓
	109		Kazakhstan	0:57:29.4	×	TAKAHASHI Rina	0:18:36.8	✓	TOLEUBAYEV ADIL	0:13:23.8	✓	LUKASHEVICH VITALIY	0:11:35.2	✓	IBRAYEVA KAMILA	0:13:53.6	×

SR18																	
BIB		RANKING	NATIONALITY	RESULTS		THE FIRST LEG		THE SECOND LEG		THE THIRD LEG		THE FOURTH LEG		REMARK			
NUMBER	NAME	TIME	STATUS	NAME	TIME	STATUS	NAME	TIME	STATUS	NAME	TIME	STATUS					
1	210		China	0:57:36.8	✓	李曼群	0:15:23.4	✓	唐灏	0:14:00.2	✓	张岳来	0:14:05.3	✓	周希钰	0:14:07.9	✓
2	203		Japan	1:01:36.0	✓	OCHIAI Hana	0:16:33.0	✓	SOBUE Yusuke	0:13:28.6	✓	MORIKEYO Seiya	0:14:17.4	✓	YOSHIDA Nanako	0:17:17.0	✓
3	207		Chinese Taipei	1:11:20.2	✓	HUANG, MIN-HUEI	0:14:45.9	✓	HUANG, BO-YUAN	0:18:23.8	✓	HUANG, YU-HAO	0:19:20.3	✓	HO, YU-YU	0:18:50.2	✓
4	206		Macau China	1:20:37.1	✓	Leong Man Wai	0:27:11.9	✓	CHAU HOU TIN	0:17:42.2	✓	Kong Chak Lon	0:17:22.7	✓	Chan kam I	0:18:20.3	✓
5	209		Chinese Taipei	1:20:56.5	✓	LIN, CHIEH-FANG	0:18:30.6	✓	CHAN, YU-CHIEH	0:22:31.3	✓	LIN, CHIN-TI	0:14:55.4	✓	LEE, HSN-YU	0:24:59.2	✓
6	208		Korea	1:42:40.4	✓	KOO MINJUNG	0:23:13.1	✓	KIM DONGYEONG	0:23:56.9	✓	KIM MINSEUNG	0:24:39.1	✓	RYU YEAJIN	0:30:51.3	✓
	201		China	0:58:32.2	✓	王小梅	0:17:00.7	✓	周鸿程	0:13:18.2	✓	焦雨豪	0:12:22.2	✓	叶紫云	0:15:51.1	✓
0	205		Korea	1:23:40.2	×	WIE HYEONJI	0:21:13.9	✓	YOON TAEJONG	0:18:58.1	×	HA JEONG SOO	0:19:10.7	✓	LEE MINJI	0:24:17.5	✓
×																	
SR20																	
BIB		RANKING	NATIONALITY	RESULTS	THE FIRST LEG		THE SECOND LEG		THE THIRD LEG		THE FOURTH LEG		REMARK				
NUMBER	NAME	TIME	STATUS	NAME	TIME	STATUS	NAME	TIME	STATUS	NAME	TIME	STATUS					
1	303		Japan	1:09:54.0	✓	MASUZAWA Suzu	0:16:43.2	✓	SHIBANUMA Ken	0:17:56.5	✓	INAMORI Go	0:17:52.2	✓	MIYAMOTO Wakana	0:17:22.1	✓
2	305		China	1:12:21.2	✓	王斌	0:16:42.4	✓	杨晓旺	0:17:06.3	✓	任天锐	0:19:13.6	✓	刘茂	0:19:18.9	✓
3	302		Hong Kong, China	1:18:36.0	✓	Lam Cho Yu	0:19:49.2	✓	Li Chun Ho	0:19:19.4	✓	Li Sing Wai	0:19:22.3	✓	Leung Hei Tung	0:20:05.1	✓
4	306		Chinese Taipei	1:39:20.1	✓	LIN, KUAN-YU	0:25:05.0	✓	TSAL, CHEN-HSUN	0:28:05.4	✓	TSAL, CHENG-CHE	0:23:07.0	✓	CHI, LE-MEI	0:23:02.7	✓
	307		Japan	1:16:25.0	✓	KOTAKE Kaho	0:18:13.9	✓	NITAMI Yuki	0:18:08.2	✓	KUSUNOKI Kenji	0:20:58.8	✓	IZUTA Ryoko	0:19:04.1	✓
0	301		China	1:11:26.6	×	欧阳琦	0:16:39.9	✓	陈程	0:21:00.3	✓	廖评伟	0:17:41.4	×	杨思露	0:16:05.0	✓
×																	

2nd Asian Junior & Youth Orienteering Championships–Middle Distance

M16									
RANKING	BIB NUMBER	CARD NUMBER	NAME	GENDER	CLASS	NATIONALITY	START TIME	END TIME	EFFECTIVENESS
1	19935	16008	MORIKIYO Seiya	男	M16	Japan	10:20:02.1	10:46:57.0	0:26:54.9 ✓
2	21178	16006	KUNISAWA Riu	男	M16	Japan	10:26:00.3	10:55:29.6	0:29:29.3 ✓
3	22845	16016	Wong Tsz Chun Jason	男	M16	Hong Kong, China	10:02:00.4	10:32:06.7	0:30:06.3 ✓
4	23054	16017	Zhongliang Zhao	男	M16	China	10:28:04.7	11:00:07.6	0:32:02.9 ✓
5	17304	16007	KANEKO Hayato	男	M16	Japan	10:32:00.3	11:04:46.0	0:32:45.7 ✓
6	22787	16013	Chu Yau Man	男	M16	Hong Kong, China	10:14:01.3	10:46:47.4	0:32:46.1 ✓
7	22573	16015	Leung Chung Wai	男	M16	Hong Kong, China	10:36:01.2	11:09:17.2	0:33:16.0 ✓
8	23082	16014	Chung Ho Yin	男	M16	Hong Kong, China	10:24:01.7	10:57:51.1	0:33:49.4 ✓
9	22722	16005	FUJIWARA Kotaro	男	M16	Japan	10:12:02.0	10:46:53.3	0:34:51.3 ✓
10	21999	16012	LIN, CHIN-TI	男	M16	Chinese Taipei	10:22:00.8	10:57:00.9	0:35:00.1 ✓
11	16412	16021	Xichen Du	男	M16	China	10:18:01.6	10:53:11.2	0:35:09.6 ✓
12	23161	16010	TSAL, YA-CHEN	男	M16	Chinese Taipei	10:16:01.5	10:54:25.6	0:38:24.1 ✓
13	23117	16019	Tao Zhang	男	M16	China	10:34:01.6	11:12:50.7	0:38:49.1 ✓
14	20234	16018	Heming Li	男	M16	China	10:08:00.9	10:49:00.6	0:40:59.7 ✓
15	21147	16009	YANG, CHUN-HAO	男	M16	Chinese Taipei	10:06:02.0	10:48:31.8	0:42:29.8 ✓
16	20828	16004	SEIKO Hikaru	男	M16	Japan	10:04:01.0	10:47:31.0	0:43:30.0 ✓
17	22688	16011	LIN, CHEN-YU	男	M16	Chinese Taipei	10:30:01.3	11:13:33.3	0:43:32.0 ✓
	22479	16001	KIM MINSEUNG	男	M16	Korea	10:10:00.8	10:57:38.1	0:47:37.3 Foul
W16									
RANKING	BIB NUMBER	CARD NUMBER	NAME	GENDER	CLASS	NATIONALITY	START TIME	END TIME	EFFECTIVENESS
1	22979	16109	HSU, EN-CHI	女	W16	Chinese Taipei	10:24:00.9	10:59:57.7	0:35:56.8 ✓
2	17117	16114	Chu Ying Yau	女	W16	Hong Kong, China	10:20:01.1	10:58:54.2	0:38:53.1 ✓

3	20574	16117	Ting Luo	女	W16	China	10:32:01.5	11:12:37.5	0:40:36.0	✓
4	20628	16106	OCHIAI Hana	女	W16	Japan	10:28:02.9	11:09:12.0	0:41:09.1	✓
5	22500	16119	Chuanzhi Wang	女	W16	China	10:12:01.7	10:54:31.6	0:42:29.9	✓
6	22583	16115	Wong Yi Shan	女	W16	Hong Kong, China	10:06:00.8	10:48:48.0	0:42:47.2	✓
7	22022	16107	MARUYAMA Rinako	女	W16	Japan	10:18:01.1	11:01:36.1	0:43:35.0	✓
8	19788	16116	Nuoyan Sun	女	W16	China	10:22:02.6	11:05:52.6	0:43:50.0	✓
9	20851	16118	Qian Qin	女	W16	China	10:04:02.2	10:48:59.0	0:44:56.8	✓
10	18529	16110	LIANG, YU-CHI	女	W16	Chinese Taipei	10:00:01.4	10:47:49.7	0:47:48.3	✓
11	20619	16112	CHUANG, YU-CHIEH	女	W16	Chinese Taipei	10:16:01.3	11:05:20.9	0:49:19.6	✓
12	23110	16103	RYU YEAJIN	女	W16	Korea	10:14:01.0	11:05:26.4	0:51:25.4	✓
13	22007	16113	CHENG, CHUN-YUN	女	W16	Chinese Taipei	10:08:02.8	11:00:17.7	0:52:14.9	✓
14	23139	16102	WIE HYEONJI	女	W16	Korea	10:25:59.4	11:21:16.0	0:55:16.6	✓
15	20879	16108	KOTAJIMA Suzune	女	W16	Japan	10:10:01.6	11:06:33.3	0:56:31.7	✓
16	17179	16111	KUO, MAN-WEN	女	W16	Chinese Taipei	10:30:00.7	11:44:15.9	1:14:15.2	✓
17	21308	16101	LEE MINJI	女	W16	Korea	10:03:06.1	11:23:11.8	1:20:05.7	✓

M18

RANKING	BIB NUMBER	CARD NUMBER	NAME	GENDER	CLASS	NATIONALITY	START TIME	END TIME	SCORE	EFFECTIVENESS
1	16774	18018	Xiao Tang	男	M18	China	10:02:01.1	10:34:50.2	0:32:49.1	✓
2	22006	18016	Yuhao Jiao	男	M18	China	10:18:00.9	10:50:55.7	0:32:54.8	✓
3	22954	18019	Yilu Wang	男	M18	China	10:32:00.8	11:04:58.2	0:32:57.4	✓
4	22815	18010	SOBUE Yusuke	男	M18	Japan	10:22:01.2	10:57:20.0	0:35:18.8	✓
5	21220	18015	Yue'ai Zhang	男	M18	China	10:08:01.3	10:45:23.7	0:37:22.4	✓
6	22481	18017	Hongcheng Zhou	男	M18	China	10:24:00.9	11:01:26.2	0:37:25.3	✓
7	22545	18004	TOLEUBAYEV ADIL	男	M18	Kazakhstan	10:00:10.3	10:39:32.9	0:39:22.6	✓
8	16671	18014	So Ka Wang	男	M18	Hong Kong, China	10:12:01.9	10:54:35.8	0:42:33.9	✓
9	19492	18008	CHAU HOU TIN	男	M18	Macau, China	10:28:06.3	11:16:59.9	0:48:53.6	✓
10	16858	18009	Kong Chak Lon	男	M18	Macau, China	10:16:01.5	11:05:04.5	0:49:03.0	✓

11	22531	18012	HUANG, BO-YUAN	男	M18	Chinese Taipei	10:10:02.0	11:00:43.7	0:50:41.7	✓
12	22906	18007	Chan Chon Hei	男	M18	Macau, China	10:06:01.2	11:00:41.6	0:54:40.4	✓
13	23100	18003	HA JEONG SOO	男	M18	Korea	10:14:00.8	11:11:27.4	0:57:26.6	✓
14	19904	18013	CHAN, YU-CHIEH	男	M18	Chinese Taipei	10:30:01.4	11:36:47.3	1:06:45.9	✓
15	21025	18001	YOON TAEJONG	男	M18	Korea	10:04:00.6	11:17:56.3	1:13:55.7	✓
16	22753	18011	HUANG, YU-HAO	男	M18	Chinese Taipei	10:20:02.0	11:36:48.9	1:16:46.9	✓
17	22617	18002	KIM DONGYEONG	男	M18	Korea	10:26:00.9	11:48:31.9	1:22:31.0	✓

W18

RANKING	BIB NUMBER	CARD NUMBER	NAME	GENDER	CLASS	NATIONALITY	START TIME	END TIME	SCORE	EFFECTIVENESS
1	22863	18112	Leung Hei Tung	女	W18	Hong Kong, China	10:08:01.8	10:50:37.2	0:42:35.4	✓
2	17281	18113	Ziyun Ye	女	W18	China	10:06:01.7	10:50:13.9	0:44:12.2	✓
3	18222	18108	HUANG, MIN-HUEI	女	W18	Chinese Taipei	10:24:02.0	11:09:44.0	0:45:42.0	✓
4	23131	18116	Xiaomei Wang	女	W18	China	10:22:01.9	11:09:39.7	0:47:37.8	✓
5	23156	18117	Xiyu Zhou	女	W18	China	10:00:00.8	10:49:52.3	0:49:51.5	✓
6	22929	18114	Manqun Li	女	W18	China	10:14:01.9	11:09:05.6	0:55:03.7	✓
7	23152	18110	HO, YU-YU	女	W18	Chinese Taipei	10:04:16.1	11:03:37.1	0:59:21.0	✓
8	22047	18115	Bin Wang	女	W18	China	10:28:04.3	11:28:13.2	1:00:08.9	✓
9	20611	18105	Leong Man Wai	女	W18	Macau, China	10:02:00.9	11:19:12.7	1:17:11.8	✓
10	22821	18104	Chan kam I	女	W18	Macau, China	10:18:02.5	11:35:42.2	1:17:39.7	✓
0	21600	18111	LEE, HSIN-YU	女	W18	Chinese Taipei	10:30:00.7	0:00:00.0	10:30:00.7	×
0	22808	18106	GAN QIANYI	女	W18	Macau, China	10:10:02.5	0:00:00.0	10:10:02.5	×
0	19923	18101	KOO MINJUNG	女	W18	Korea	10:16:01.6	12:09:36.1	1:53:34.5	×
0	15873	18103	Chan Kuan U	女	W18	Macau, China	10:26:02.8	0:00:00.0	10:26:02.8	×
0	22795	18109	LIN, CHIEH-FANG	女	W18	Chinese Taipei	10:12:02.2	11:23:28.2	1:11:26.0	×
	23149	18107	YOSHIDA Nanako	女	W18	Japan	10:20:01.2	11:13:08.9	0:53:07.7	Foul

M20

RANKING	BIB NUMBER	CARD NUMBER	NAME	GENDER	CLASS	NATIONALITY	START TIME	END TIME	SCORE	EFFECTIVENESS
---------	------------	-------------	------	--------	-------	-------------	------------	----------	-------	---------------

1	18137	20001	LUKASHEVICH VITALIY	男	M20	Kazakhstan	10:14:02.2	10:48:15.7	0:34:13.5	✓
2	21837	20004	INAMORI Go	男	M20	Japan	10:24:03.1	10:59:50.1	0:35:47.0	✓
3	97846	20006	NITAMI Yuki	男	M20	Japan	10:16:01.7	10:53:01.1	0:36:59.4	✓
4	22846	20005	SHIBANUMA Ken	男	M20	Japan	10:00:01.3	10:37:05.4	0:37:04.1	✓
5	22712	20017	Xiaowang Yang	男	M20	China	10:28:01.7	11:05:10.1	0:37:08.4	✓
6	21754	20011	Li Chun Ho	男	M20	Hong Kong, China	10:02:01.0	10:39:27.6	0:37:26.6	✓
7	85894	20007	KUSUNOKI Kenji	男	M20	Japan	10:08:01.1	10:46:27.3	0:38:26.2	✓
8	20177	20012	Li Sing Wai	男	M20	Hong Kong, China	10:10:01.4	10:49:01.7	0:39:00.3	✓
9	22948	20014	Yu Tsz Fung	男	M20	Hong Kong, China	10:18:01.1	10:57:39.6	0:39:38.5	✓
10	16458	20018	Tianrui Ren	男	M20	China	10:20:01.0	10:59:48.8	0:39:47.8	✓
11	16638	20013	Shiu Chit Hei	男	M20	Hong Kong, China	10:26:00.4	11:08:26.8	0:42:26.4	✓
12	21866	20016	Pingwei Liao	男	M20	China	10:04:01.1	10:46:36.5	0:42:35.4	✓
13	21463	20008	TAKAMIZAWA Shoichi	男	M20	Japan	10:30:02.1	11:13:38.5	0:43:36.4	✓
14	22839	20009	TSAI, CHENG-CHIE	男	M20	Chinese Taipei	10:22:00.6	11:20:21.7	0:58:21.1	✓
15	17412	20010	TSAI, CHIEN-HSUN	男	M20	Chinese Taipei	10:06:00.8	11:11:11.8	1:05:11.0	✓
0	22822	20015	Cheng Chen	男	M20	China	10:12:02.1	11:03:46.9	0:51:44.8	×

W20										
RANKING	BIB NUMBER	CARD NUMBER	NAME	GENDER	CLASS	NATIONALITY	START TIME	END TIME	SCORE	EFFECTIVENESS
1	22680	20115	Mao Liu	女	W20	China	10:24:00.9	11:04:13.3	0:40:12.4	✓
2	22867	20112	Lam Cho Yu	女	W20	Hong Kong, China	10:08:00.4	10:50:32.7	0:42:32.3	✓
3	23045	20107	MIYAMOTO Wakana	女	W20	Japan	10:26:00.8	11:09:20.5	0:43:19.7	✓
4	22924	20101	IBRAYEVA KAMILA	女	W20	Kazakhstan	10:14:01.4	10:59:15.3	0:45:13.9	✓
5	21564	20116	Silu Yang	女	W20	China	10:04:01.7	10:49:54.3	0:45:52.6	✓
6	22501	20106	MASUZAWA Suzu	女	W20	Japan	10:18:00.6	11:07:29.8	0:49:29.2	✓
7	21998	20104	KOTAKE Kaho	女	W20	Japan	10:00:01.9	10:50:07.1	0:50:05.2	✓
8	20463	20103	TAKAHASHI Rina	女	W20	Japan	10:06:01.2	10:59:43.4	0:53:42.2	✓
9	22657	20109	LIN, KUAN-YU	女	W20	Chinese Taipei	10:10:00.8	11:08:22.2	0:58:21.4	✓

10	22040	20113	Law Hoi Yi	女	W20	Hong Kong, China	10:22:00.3	11:22:42.8	1:00:42.5	✓
11	22938	20108	CHI, LE-MEI	女	W20	Chinese Taipei	10:02:01.1	11:21:35.3	1:19:34.2	✓
0	19971	20111	YANG, SHAO-TUNG	女	W20	Chinese Taipei	10:28:03.2	0:00:00.0	10:28:03.2	×

参考資料 3 日本オリエンテーリング協会発行のプレスリリース

報道関係各位



(公社) 日本オリエンテーリング協会

〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1

岸記念体育会館内

TEL 03-3467-4548 FAX 03-3467-4549

joa@orienteering.or.jp

<http://www.orienteering.or.jp>

—メダルラッシュ！第2回アジアジュニア・ユース選手権大会— 金メダル3個、銀メダル3個、銅メダル6個

2017年8月20日から24日まで、中国・内モンゴル自治区で開催された第2回アジアジュニアユースオリエンテーリング選手権（AsJYOC）大会において、日本チームが素晴らしい成績を収めましたのでご報告致します。

この大会では、スプリント種目（男女別20歳以下、18歳以下、16歳以下の3階級）、男女混合スプリントリレー種目（20歳以下、18歳以下、16歳以下の3階級）、ミドルディスタンス種目（20歳以下、18歳以下、16歳以下の3階級）がおこなわれ、日本チームは、男女混合スプリントリレーの連覇を含め、金メダル3個、銀メダル3個、銅メダル6個を獲得する好成績を残しました。

【スプリント種目】

M16 優勝 森清 星也

M18 第3位 祖父江 有祐

M20 第3位 稲森 剛

W20 第3位 出田 涼子



森清 星也選手（中央）



祖父江 有祐選手（右側）



稲森 剛選手(右側)



出田 涼子選手(右側)

【男女混合スプリントリレー種目】

MW16 第3位 丸山 里那子ー国沢 琉ー金子 隼人ー古田島 鈴音

MW18 第2位 落合 英那ー祖父江 有祐ー森清 星也ー吉田 菜々子

MW20 優勝 増澤 すずー柴沼 健ー稲森 剛ー宮本 和奏



MW16 第3位



MW18 第2位



MW20 優勝



MW20優勝メンバー

【ミドルディスタンス種目】

M16 優勝 森清 星也
 M16 第2位 国沢 琉
 M20 第2位 稲森 剛
 M20 第3位 新田見 優輝
 W20 第3位 宮本 和奏



森清 星也選手(中央)と国沢 琉選手(左側)



稲森 剛選手(左側)と新田見 優輝選手(右側)



宮本 和奏選手(右側)



次回(第3回)は日本で開催されることになりました。
 AsJYO旗を受け取る落合国際副委員長

【問い合わせ先】

公益社団法人日本オリエンテーリング協会 <http://www.orienteering.or.jp/>
 電話：03-3467-4548 高村卓事務局長（岸記念体育会館内）
 email:joa@orienteering.or.jp

公益社団法人日本オリエンテーリング協会強化委員長 藤井範久
 電話：090-3226-7991
 email:nfujii@orienteering.or.jp

以上